

アイデア・プロレスコラム SPLASH (スプラッシュ)

岡本 悠 Okamoto Yu

2020年7月～12月下半期。①

まえがき

正直、こういう「まえがき」も練習だと思って書いている。

今回は、アイディア・プロレスコラム、2020年7月～12月下半期①がSPLASH（スプラッシュ）という題で、同じく2020年7月～12月下半期②がCOLA（コーラ）という、半ば直感というか、適当な題名をつけている。

ここでは、この本SPLASHについて、話を進めていきたい。

その前に、その時代を生きた者として一応、書いておきたいのが、新型コロナウイルスという感染症が世界中に広まった。多くの死者が出て、今もワクチンなどはできているが、この感染症は続いている。この本SPLASHでは、あまり触れていないが、もう1冊のCOLAのほうで軽く触れているので、良かったら読んでいただきたい。あまり詳しいことは書いていないが。

今回の、こちらの本、SPLASHでは、どちらかというと、完全にプロレス中心のネタで出来上がっている。

現在AEW（オール・エリート・レスリング）所属の、クリス・ジェリコのネタを中心にスタートしている。

驚きは、続いて書いたのが、女子プロレス団体のスターダムについてのコラムを並べた。

一番、多くのコラム数を誇るWWE（ワールド・レスリング・エンターテインメント）は中盤の初めからだ。

AEW、新日本プロレスなどが続く。

今回の作品、SPLASHと、COLAは、誰かに見せるという目的の作品ではない。以前までは配ったりしたが、プロレスがわからない人達に渡しても、多分、いい迷惑だと感じるだろうからだ。よって、今回も自分の中で完成させて、形にすることはちゃんとやりたいと思っている。

私のやりたいことは、例えば、本を書くことなのか？ これは、可能性は低い音楽を作ることなのか？ だと思ったりする。しかし、今はプロレスコラムをできるだけ毎日書きながら半年単位くらいで、1～2冊の製本を完成させるという作業をしていきたい。

もう1冊の本COLAで、プロレスのこと以外のことを書くと、なんとなく広がりを感じたりしたが、私は、おそらく今後もプロレス、野球、サッカー……といったタイプの本しか読まないであろう。

私は、違う分野を知ろうとも、学ぼうともせずに、プロレスについて書くだらう。（終）

目次 Contents

まえがき……002

1. クリス・ジェリコ。……006

- ①クリス・ジェリコ — オレンジ・キャンディ III。ジェリコ、オレンジの池へ、敗北！
- ②クリス・ジェリコと MJF の、カットなしの天才的ロングトークバトル。
- ③クリス・ジェリコ 30 周年記念大会。棚橋弘至、ウルティモ・ドラゴンなどがメッセージ！
- ④クリス・ジェリコが MMA（総合格闘技）や、G1 CLIMAX に出場したら感動する。
- ⑤クリス・ジェリコの入場テーマ曲“ジュダス”をファンが歌い続けるシーンに感動！
- ⑥クリス・ジェリコ — MJF（マックスウェル・ジェイコブ・フリードマン）。遂に激突決定！
- ⑦新日本プロレスの東京ドーム大会に、インナーサークルの7人が入場したらカッコいい！

2. 女子プロレス団体、スターダム。……014

- ①スターダム時代、柴雷イオは岩谷麻優にキス！ カイリ・セインは「宝ちゃん」と呼ばれた。
- ②舞華（ドンナ・デル・モンド）は、気も強いが、清楚で超かわいい！
- ③鹿島沙希が、ジュリアに、「こんな、もやしみたいな奴に負けて、今、どんな気持ち？」
- ④ひめか、同門（ドンナ・デル・モンド）、年上のジュリアにも、勝利して呼びつけ！
- ⑤スターダムの、12人の水着（ビキニ）の写真集の表紙は、皆、キレイだった！
- ⑥小波の「トライアングル・アームロック」は100%の勝率！
- ⑦舞華、フューチャー王座防衛。白いベルト戦、ひめか、ジュリアに負けて涙。
- ⑧舞華（福岡県出身）のソフトバンク？ と、私の巨人軍。野球、日本シリーズ？
- ⑨林下詩美が岩谷麻優から、赤いベルト奪取！ 逆転の女子プロレス大賞か？
- ⑩ユニット、ドンナ・デル・モンドの5人に膨らんだメンバーを整理。
- ⑪ジャングル叫女は、優しく、かわいい。 チームじゃんぐるってる。
- ⑫朱里は、ドン・フライのように格闘技は強いが、最高位王座は取れるのか？
- ⑬中野たむは、こんな形で STARS を離脱して良かったのか？
- ⑭林下詩美やはり王者の貫禄！ ジュリア — 朱里は引き分け！ 舞華はベルト落とす！
- ⑮舞華の試合や、舞華の解説！ “NXT”柴雷イオや、“AEW”志田光の動き！

3. ビッグマッチ・大会。……030

- ①新日本プロレス。NEW JAPAN CUP を総括！ オカダ、タイチ、SHO 脱落、EVIL 優勝は意外！
- ②林下詩美、ひめかを破り、『STARDOM 5☆STAR GP 2020』優勝！
- ③飯伏幸太の言う、「本当の神になる」とは何か？
- ④高橋ヒロム、エル・デスペラードの正体を剥がして勝利覇者！ タッグは乱入で物足りず！

4. WWE (ワールド・レスリング・エンターテインメント)。

……035

- ①柴雷イオ、についてのオールスターコラム！ いつか見たい、ムタールイオ戦！
- ②カイリ・セイン、WWE 所属のまま帰国。日本から WWE のプロモーションをサポート。
- ③ドリュー・マッキンタイアは、WWE 王者としての風格がある！
- ④レトリビューションは、何をやりたいのか？
- ⑤「ロウ・アンダーグラウンド」は、かなりストレスが発散できる！
- ⑥NXT 女子王者、柴雷イオの包囲網。リア・リプリー、トニー・ストーム、エンバー・ムーン！
- ⑦プロレスラー、マーフィーについて。(マーフィーの法則！)。
- ⑧将来の WWE 殿堂ユニット候補、“エボリューション”は格好良すぎる！
- ⑨柴雷イオ (NXT 女子王者)、キャンディス・レラエには、また負けなかった！
- ⑩中邑真輔は、今のポジションでも、文句一つ言わず、自分の役割をこなす。
- ⑪カイリ・セインの犬の話と、柴雷イオの猫の話。“レススルマニア”でシングルを見たい！
- ⑫WWE に、NFL 勢、ロブ・ Gronkowski や、パット・マカフィーの参戦について！
- ⑬ランディ・オートンは、あと2回最高位王座戴冠で、フレアーとシーナの持つ16回に並ぶ！
- ⑭ザ・ロック様 (俳優名：ドウエイン・ジョンソン) について。
- ⑮ローマン・レイنزの、頭領になってからの風格は凄い！
- ⑯「モントリオール事件」は、そもそもメドゥーサへの仕返しだったのか？
- ⑰WWE 特番“TLC”。WWE 選手権は、AJ スタイルズ達を退け、ドリュー・マッキンタイアが防衛！

5. AEW (オール・エリート・レスリング)。……053

- ①ダーク・オーダーは、nWo のようになれるのか？ MR. プロディ・リー、TNT 王座戴冠！

- ②Cody の復活の登場は、かつての WCW のスティングの nWo 退治のようで、かっこ良すぎだ！
- ③Cody とブランディ・ローデスは、最高の美男・美女カップル！
- ④AEW で、NWA 世界女子選手権。(王者) セレナ・ディーブ — (挑戦者) レイラ・ハーシユ。
- ⑤AEW 特番 “FULL GEAR” 。純アメリカンプロレスと、ストロング・アメリカンプロレス！
- ⑥AEW 特番 “FULL GEAR” AEW 世界女子選手権、志田光勝利！ NWA 女子世界王座……他！
- ⑦AEW になんと、スティングが電撃登場！ 3 代目、新 AEW 世界王者にケニー・オメガ！
- ⑧マット・サイダルの「ナマステ」とは何か？
- ⑨ケニー・オメガは、AEW 世界王座を獲得したあと、インパクト・レスリングに持ち去った！
- ⑩志田光は、何故、こんなに強いのか？ AEW 女子部門を整理。

6. 新日本プロレス。……064

- ①高橋ヒロム — 矢野通。最高に面白い試合！ 1 階送り→リングアウト。
- ②オカダ・カズチカ、しれっと「必殺技のレインメーカーを封印、変型コブラクラッチ」宣言！
- ③感動の内藤哲也！
- ④グレート-0-カーンは、まだしょっぱいけど、今後の活躍に期待！
- ⑤内藤哲也の「俺の意見が通るっていうのは なかなか珍しいパターン」。

7. コラム、NWA、全日本プロレスレジェンド、徒然。……070

- ①今のジョン・モクスリーが、オカダ・カズチカと対決したら面白い！
- ②元、スターダムの花月や葉月の引退は、男子の新日本プロレスとの合体が原因の1つか？
- ③NWA “ショックウェーブ”、Episode 1 始動。NWA 世界ヘビー級王者、ニック・オールデイス。
- ④ジャンボ鶴田は、「最高ではないが、最強のプロレスラーだった」という証言。
- ⑤ジェフ・ジャレットは、何で、そんなにかわいくて、かっこいいのか？
- ⑥女子プロレスラーに恋をすると、幸せになる。

あとがきにかえて……077

1. クリス・ジェリコ。

2020年9月6日（日）

クリス・ジェリコ — オレンジ・キャッシュィ III。ジェリコ、オレンジの池へ、敗北！

AEW（オール・エリート・レスリング）特番。“ALL OUT”がユーチューブで放送された。セミファイナルでは、クリス・ジェリコ — オレンジ・キャッシュィのミモザ・メイヘム・マッチ（リングの左右にオレンジの池があり、ここに飛び込んで入ってしまったほうが負け、というルール、ただし、フォールやサブミッションなどもあり）で戦った。IIIというのは、ジェリコとキャッシュィの3回目のシングル戦で、ここまで1勝1敗。事実上の決着戦と言えるだろう。試合はいきなり走ってきたキャッシュィに対して、ジェリコがコードブレイカーを浴びせるが2カウント。その後はジェリコが優勢に試合を進めた。それぞれ身体の一部が軽く池に触れていたが、これは決着とは関係ないようだった。キャッシュィは柴田勝頼が使うP.K.を使い、実況も「P.K.」と叫んだが、ジェリコは間髪交わした。最後はトップロープに掴まっているジェリコに、キャッシュィがスーパーマンパンチから、サポーターを外し、助走をつけて、スーパーマンパンチでジェリコがもの見事にオレンジの池に落ちた。そのやられ振りは最高だった。キャッシュィはこれでプロレスラーとして一段階上がったのではないかな？ ついに2人の遺恨は決着か？

メインイベント。AEW世界選手権、(王者) ジョン・モクスリー — (挑戦者) MJF (マックスウェル・ジェイコブ・フリードマン) の試合は、デスライダー〜片エビ固めで、モクスリーが防衛した。この試合、私は、モクスリーのレスリングは問題ないと思ったが、MJFはメインイベンターに匹敵するレスリングの技術があるのか？ が疑問だった。MJFはモクスリーをエプロンで左腕を叩きつけるとか、フジワラ・アームバーを左腕に見舞うなど攻め方は理に適っていた。しかし、モクスリーもグラウンドは強いので、すぐにロックを外してロープエスケープした。最後は、MJFサイドのワードローが指輪を入れるが、それをMJFが掴む隙に、モクスリーがデスライダーを決めた。MJFはこの試合まで、演説などをおこないそういうベシヤリ（喋り）のレスラーとしてはいいが、レスリングは退屈で上手くなく、この日のメインイベンターとしてはふさわしくなかったと言えるかもしれない。

AEW女子世界選手権、(王者) 志田光 — (挑戦者) サンダー・ロサという注目の一戦。光は日本人で好きなレスラーでもあり応援したが、サンダーは、NWA（ナショナル・レスリング・アライアンス）世界女子王座である。サンダーをかつてから知っていたが、NWA世界女子王座という点からしても、サンダーを光に勝たせることも考えたが、最後は光が、Tamashii〜片エビ固め。で防衛。私はこの判断は、AEWは正しいと思った。

AEW世界タッグ選手権、(王者) ケニー・オメガ&● “ハングマン” アダム・ページ — (挑戦者) FTR (○キャッシュィ・ウィーラー&ダックス・ハーウッド) の試合はFTRが勝ち、第3代新王者に輝いた。ちなみにFTRは、WWE（ワールド・レスリング・エンターテインメント）でザ・リバイバルとして活躍したタッグ屋。オメガとページには亀裂が入った。(終)

2020年10月1日（木）

クリス・ジェリコと MJF の、カットなしの天才的ロングトークバトル。

最近の AEW では、2週に渡って、クリス・ジェリコと、MJF が、カットなしの天才的ロングバトルを繰り返した。もちろん、これがアメリカであれ、日本であれ、俳優が演じたのであるならば、そのくらいは楽勝かもしれないが、プロレスファンの私が見て、プロレスラーが長いトークバトルを演じるのは、見ていて凄い。

例えば、前回は、インタビューを受けているジェリコに対して MJF が話しかけた、しばらく話したあと、お互いに「ルーザー！（敗者！）」と言いつつ。ジェリコも MJF も以前の特番で負けていたからだ。しかし、この2人はヒール同士で繋がっているのか、2人で話合いが続くが、私は英語がわからない。でも、褒めるとか、皮肉を言い合っているのはわかる。最後のほうでは、声を揃えて、何かを言い合って笑い合うなど、長いトークを見せてくれた。私は、これは、外国人特有のものだな、と思った。

今回は、ジェリコのユニット、インナーサークルの5人がロッカールームにいて、MJF がワードローブを連れて部屋に入ってきた。そして、MJF が事情を説明した後、まず、ジェイク・ヘイガーに T-シャツを、次に、サンタナとオルティズにも T-シャツを、そして、ジェリコにも T-シャツを配った。しかし、1人、若手のサミー・ゲバラの T-シャツだけでなく、MJF が困っていた。少しだけロッカールームの空気が険悪になったが、MJF が弁解して、また長いトークを始めた。それをゲバラが割り込んで入りかけると、ジェリコが制して、今度はジェリコの長いトークが始まった。確かにここまででもカットがないカメラ1台の攻防で凄い。ジェリコと MJF が少し言い合いになると、ヘイガーが MJF に近づいた。しかし、同じく大柄なワードローブも前に出て視察戦になる。しかし、最後はジェリコと MJF が和解したような形となり、MJF やワードローブは部屋を出て行った。部屋を出たあとも、ジェリコは何か声をふざけて投げかけていたので、そこでカットになったら台無しなのによくやるなあ、と思った。

私は、素直に、このトークバトルの激しい2人が、抗争に発展してくれたら面白いと感じる。プロレスの試合としての実力はジェリコが上だろうが、この言い争いは楽しい。武藤敬司は「あいつらは言葉のプロレスをしやがる」とか、中邑真輔も「例えば、ザ・ミズはベシヤリ（喋り）のスペシャリスト」というように、WWE であれ、AEW であれ、アメリカンプロレスは、喋りができないといけないというのが基本的にはあると思う。少し失礼な言い方になるが、日本も内藤哲也のような抑揚（よくよう）のあるマイクパフォーマンスではなくて、俳優、例えば、日本なら AKIRA という選手から、より自然なマイクのやり方を取り入れたらどうだろう。でも、日本は日本のやり方で試合を見せれば良いが、ジェリコや MJF のようなトークバトルを取り入れたい。（終）

2020年10月8日（木）

クリス・ジェリコ 30 周年記念大会。棚橋弘至、ウルティモ・ドラゴンなどがメッセージ！

この日は、AEW の“ダイナマイト”で、クリス・ジェリコのおそらくプロレスデビュー30周年記念大会がおこなわれた。

ジェリコはメインイベントで、タッグマッチ。○クリス・ジェリコ&ジェイク・ヘイガー
ー ●ルザー&セアペンティコ、という試合で、ジュダス・エフェクトで勝利を収めた。

メインイベント終了後、ジェリコがファンへの感謝のコメントを述べていると、MJF などが登場して割り込んだ。それは、MJF としては割り込んだつもりではない祝福のつもりのもようだった。しかし、MJF とワードローの他に、カラフルなピエロのような人形が姿を現した。それはともかく、MJF はジェリコに紙に包まれた長方形の物体をプレゼントした。ジェリコがその紙を破いて中身を見ると、MJF の顔写真が大きく一面に貼ってある額縁だった。ジェリコはすぐにその額縁を持って、思い切りピエロの人形の人物にぶつけると、その額縁はピエロの頭を貫通してしまった。ジェリコはマシンガンのように言葉で怒りを MJF にぶつけているように見えたが、しばらくして、正確な英語はわからないが、「なんてねー」とジョークで返した。すると MJF も「なんてねー」と返して平和的に解決した。このジェリコの30周年だから水を差したくないが、ジェリコと MJF はきっといつか戦う日は来ってしまうだろうとは感じる。そんなやりとりが終わると、エントランス（入場ゲート）から、次々にレスラーやレスラー仲間が登場して、ジェリコを祝っていた。すると、エンディングの字幕が流れたが、「プロデュース、クリス・ジェリコ」から始まって、他の全てに至るまで全部「クリス・ジェリコ」という字幕が流れて、私は面白くて笑ってしまった。そして、ジェリコの30周年記念大会は無事終わった。

試合の間のジェリコへのビデオメッセージには、ジェリコに関わる数々の大物が顔を揃えた。棚橋弘至やウルティモ・ドラゴン、DDP（ダイヤモンド・ダラス・ページ）、ブリー・レイ（元、WWE のババ・レイ・ダッドリー）、ランス・ストーム……他、たくさん。棚橋は簡単な英語を使いながら「おめでとうございます。東京ドームでは1回負けています。もう1回戦いましょう。いや、あと10回戦いましょう」というような温かいメッセージを届けていた。ウルティモについては英語が達者な為、逆に日本人の私には何を言っているのかわからなかった（笑）。

WWE では、トリプル H が今年、25 周年というのをやったがトリプル H は 51 歳だった。ジェリコは 30 周年を迎えたが、トリプル H より若く 49 歳だ。だから、ジェリコのほうがトリプル H より若いのにプロレスキャリアは長いのもかもしれない。さすがにジェリコは WWE で長いこと活躍したけど、AEW のジェリコに対しては、ライバル会社のせいかな、WWE からのビデオメッセージはなかった。

私は、ジェリコを見られて幸せだ。30 周年。今後もまだまだ活躍し続けて欲しい。（終）

2020年10月24日（土）

クリス・ジェリコがMMA（総合格闘技）や、G1 CLIMAXに出場したら感動する。

AEW所属の、クリス・ジェリコの考えは、「プロレスとMMA（ミックスド・マーシャル・アーツ／総合格闘技）は一緒のものとして見てはいけない」というものだ。私は、ジェリコがWWEにいた頃は、若くて、カッコ良くて、細くて、でも口は達者なスーパースターというイメージで、私は、ジェリコがWWEにいたこともあるが、強さという面では、特に意識したことはなかった。でも、昔は、カナダの名門スチュ・ハート道場にいたということは知っていた。

2018年に、新日本プロレスに登場してからは、身体も大きくなり、特に、内藤哲也との試合などは、凄惨な試合になりかねない試合をした、といたら言い過ぎだろうか？

あり得ないが、ジェリコが一流のMMAのファイターを相手に、戦ったらどうなるだろう。一気に相手にラッシュを仕掛けられて、パンチを打たれ続けて動きが止まった瞬間、レフェリーが試合を止めるパターンの、よくある、プロレスラー — MMAファイターの結果になりそうだ。プロレスラーの言い訳にも聞こえるが、「パンチを連続で食らって、技を受けて止まっているのもプロレスの範疇だ」というのが、もしかしたら、プロレス側からは意見になるかもしれない。でもそれは、永田裕志やスティーブ・ウィリアムスがそうだったように、試合は止められてしまう。やはり、藤田和之、ブロック・レスナー、デヴィ・バティスタ、ボビー・ラシュリーのように、動きが止まって殴り続けられるという状態がないという状態を作らないといけない。それが、プロレスラーがMMAマットで勝つための最低条件になる。ジェリコがもしMMAファイターや（大乱闘したマイク・タイソン）と闘うなら、プロレスのマットでのルールでやるというしかない。繰り返すが、ジェリコはプロレスとMMAを一緒のものとしては見ていないからだ。それでもMMAに出たら、感動してしまうかもしれない。

ジェリコは今年も、新日本のG1 CLIMAXには、出場しなかったが、ジェリコはプロレスラーだから、MMAは無理でも、G1なら、かなりお金を積めば出場してくれる可能性はある。事実、AEWのジョン・モクスリーは、2019年のG1に出場していて、予選のブロックで敗れて、決勝にはいけなかったが、今のモクスリーはならもっと価値が高いはずだ。モクスリーは現在34歳だが、ジェリコは現在49歳。鈴木みのるが今年52歳で出場しているにしても、このハードな（今年はコロナ禍で秋のG1だが）夏のG1に初めて挑戦するのは、いくら日本にも詳しくて、移動にも慣れているジェリコでも厳しいかもしれない。ジェリコのようにもう宝を集めたキャリアの選手を優勝させるのなら、新日本は若い外国人に限らないが、若手にチャンスを与えるのかもしれない。

ジェリコは今年の、新日本、2020年1月5日、「WRESTLE KINGDOM 14 in 東京ドーム」に登場して、棚橋弘至を破った。AEWだけでなく新日本にも、また参戦して欲しい。（終）

2020年10月26日（月）

クリス・ジェリコの入場テーマ曲“ジュダス”をファンが歌い続けるシーンに感動！

クリス・ジェリコ、AEW所属の、入場テーマ曲は“ジュダス”という曲だ。ジェリコのバンドFOZZY（フォジー）で以前作った曲を、そのままジェリコの入場テーマ曲などに使っている。ちなみにジェリコの、最近のフィニッシュ技はジュダス・エフェクトというローリングバックエルボーである。

ジュダスはやや、静かな暗い感じで最初は始まるが、だんだん激しくなり、ジェリコ中毒のファンが、客席から身体を揺らして大声で、皆で歌っている。あまりに皆が真剣に歌うので私も「スゲエ！」って思う。ジェリコもリング上で、その光景に満足したように見渡している。そして、曲を観客が歌い切ると凄い歓声が起きるといふ光景になる。

私も、取り寄せでいいから、ジェリコの“ジュダス”のCDが欲しいのだが、コロナ禍になってからは、電車にも乗っていないので、CDを買いに行くこともできない。もしかしたら、パソコンで障りだけでも聴けたような気はしたが。

ジェリコは日本で試合をする時も、入場テーマ曲は“ジュダス”だったはずだが、私は、テレビでしか確認していない。おそらく日本のファンはジェリコの曲を、声を上げて歌い続けるということはしなかったと思う。私も「できるかな？」と考えた時に、まず、「英語だから歌えないな」と思ったし、日本のファンの前で知ったかして1人で歌っていたら「この人なんだよ！」って思われるのではないかと思った。

日本人のプロレスラーに例えるなら、鈴木みのるが、中村あゆみさんの歌の「風になれ」で入場してくるが、おそらく、1番も皆、ファンは歌っているだろうし、鈴木がエプロンに上がり思っきり全員で「かぜになれー！」と叫ぶのは、日本でも凄いいし、海外のファンも日本語がわからなからうが「カゼニナレー！」と歌っている。

引退したが、獣神サンダー・ライガーの「怒りの獣神」という曲も、アニメから出てきたと思うが、あの曲も女性の歌声で、歌詞が日本語でわかりやすい。

元、鈴木軍のデイビーボーイ・スミス JR なんかも、最近は見ないからわからないが、日本で流行った PRIDE (MMA-ミックスド・マーシャル・アーツ-総合格闘技団体) のテーマ曲を使っていて、あれも PRIDE を見てきたファンにとっては懐かしさがこみ上げる。

あとは、藤田和之の『炎のファイター～INOKI BOM-BA-YE～オーケストラバージョン』なども、藤田が強かったことも込みで、鳥肌が立つ。

これ以上、挙げていたらキリがないけれど。

戻り、多分、ジェリコの“ジュダス”も、ライブで浸透させたのかもしれないけど、自然発生ではなくて、「1番の最後まで皆で歌い切ってくれ」と言ったのかもしれない。そして、ファンがそれに応えて、“ジュダス”をノリノリで真剣に歌う、これは凄い。ジェリコは今、AEW から WWE に帰る必要はない。(終)

2020年11月3日（火）

クリス・ジェリコ — MJF (マックスウェル・ジェイコブ・フリードマン)。遂に激突決定！

AEWの次回特番“FULL GEAR”のマットで、クリス・ジェリコ — MJFの試合が決定した。これは実に陽イオンというか、平和な対決である。ジェリコもMJFも仕掛けたりすることがないという意味では安心して見られる。だが、ジェリコのユニット、インナーサークルのメンバーや、MJFサイドのワードローなどが乱入すると、どういう展開になるのかはわからない。最近の特番で、ジェリコは、格下かはわからないが、オレンジ・キャシディに負けたりしたので、この試合はそういう政治的な意味でも勝敗はジェリコが有利と見える。MJFは例え、負けたとしても、WWEのザ・ミズではないが、ベシヤリ（喋り）の部分で食っていきけるから、負けてもほとんど傷がつかない。私は、ジェリコがMJFに負ける形はちょっと想像できない感じだ。

ここまでの抗争は、インタビュー中に、お互いに「ルーザー（敗者）」と呼び合ったが、最後には笑い合って仲良くなったように見えた。そして、2回目は、ジェリコのユニット、インナーサークルの部屋にMJFが訪れて、T-シャツを配ったが、一番若い、サミー・ゲバラのT-シャツだけがないということがあり、話を続けた結果、ようやくMJFは部屋を出た。3回目は、ジェリコとMJFのディナーということで、2人はスーツを着て、綺麗なレストランで食事をした。しかし、次第に歌を歌い出したり、音声も吹き替えに変わったり、そして、女性などと手を組んで、ジェリコとMJFは歌いながらダンスなどを始めた。そして、また座席に戻り、2人は何かを話して終わった。私は、これは結構面白かった。

4回目は、プレゼンテーションや、英語でわからなかったが、さまざまなレスラーや関係者が質問していくコーナーが設けられた。ジェリコはMJFのことを何と呼んだかは分からないが、MJFはジェリコのことを、クリスではなく正式名の、クリストファーと馴れ馴れしく呼んでいた（笑）。そして、質問者にあのWCW（ワールド・チャンピオンシップ・レスリング/WWEに吸収された団体）の副社長などを務めたエリック・ビショフが登場すると、ジェリコがまくし立てたが、司会者のトニー・シバーニが「ジェリコ、シャーラップ！（黙れ!）」という、さすがにジェリコは黙った。ジェリコは偉大だが、ビショフは目上の人という気持ちはあるのかもしれない。

MJFが何か喋ったあと、ジェリコが遂に喋り出した。そして、「1対1。クリス・ジェリコ — MJFの対決だ!」と言うと、MJFは困惑していた。するとインナーサークルのメンバーは「まずは、俺達がやってやる」というようなことを言ったようだ。そして、ジェリコを含むインナーサークルはバックステージに戻り、残されたMJFは仕方なく持っていたマイクをテーブルに綺麗に置いた。

AEW特番「FULL GEAR」は、11月8日（日本時間）だ。ジェリコ — MJFは楽しみ。（終）

2020年11月27日（金）

新日本プロレスの東京ドーム大会に、インナーサークルの7人が入場したらカッコいい！

AEWの、ユニット、インナーサークルのオリジナルメンバーはクリス・ジェリコ、ジェイク・ヘイガー、サンタナ、オルティズ、サミー・ゲバラの5人だった。しかし、MJFと、ワードローの2人は、ジェリコ - MJFの、「MJFがジェリコに勝ったら、インナーサークル入り」の試合に勝ったので、軍団入りして、インナーサークルは7人に膨らんだ。

この日のAEW“ダイナマイト”では、ジェリコ&ヘイガー組のタッグマッチがあったが、ジェリコ（歌手名：ムーンゲース・マックイーン）がボーカルの、FOZZYというパンクバンドの曲“ジュダス”が流れると、ジェリコとMJFを先頭に7人がぞろぞろと入場してきたが、そのメンバーの入場が物凄いかっこ良かった。もちろんジェリコもカッコいいのだが、MJFのマフラー姿の存在もカッコいい。MJFはそれでもまだ24歳というのが驚きだ。ジェリコは50歳だから、倍以上違う。

私は、この今のインナーサークルのかっこ良さは、月並みな例えかもしれないが、nWo（ニュー・ワールド・オーダー／注：ハルク・ホーガン、ケビン・ナッシュ、スコット・ホールなどが中心になったユニット、社会現象を巻き起こした）＝WCWに負けないかっこ良さがあると思う。人気があるユニットだけど、ヒールユニットでもあるわけだし。

私は、AEWのリングでこのインナーサークルの入場のかっこ良さを見たが、できることなら、来年の2021年1月4日か、1月5日に、クリス・ジェリコを新日本プロレスのリングに呼んで、あの東京ドームの花道をこの7人のメンバーが、ファンを挑発しながら、歩く入場シーンを見てみたい。相手は中堅でもいいし、タッグマッチでもいいのだが、インナーサークルが連携でMJFなどがアシストして、新日本のレスラーにズル勝ちするというシーンだけでも見られたら本当に心地よい。

やはり、新日本の花道というのがポイントだ。あそこにインナーサークルの7人が列をなす。ダーク・オーダーなんて馬鹿言っただけじゃない。ダーク・オーダーはnWoにはなれない。問題は新日本が、メジャーリーガーの外国人より、ジェイ・ホワイトやウィル・オスプレイのような生え抜きの選手で興行は十分だと思ってしまうことだ。海外のプロレスの風景を、新日本の東京ドーム大会で見たいのだ。インナーサークルを是非東京ドームで見たい。（終）

2. 女子プロレス団体、スターダム。

2020年7月14日（火）

スターダム時代、柴雷イオは岩谷麻優にキス！ カイリ・セインは「宝ちゃん」と呼ばれた。

私は、2011年に女子プロレス団体スターダムが旗揚げされた頃を知らない。というより、スターダムを継続してテレビで見るのは今年の2020年1月からだ。良いのか悪いのかはわからないが、新型コロナウイルスの影響で、スターダムの番組が昔の試合を放送してくれていた。例えば、柴雷イオであり、カイリ・セイン（スターダム時代は、宝城カイリのリングネームだが、ここでは私はカイリと呼ぶ）。更に、昔になると、愛川ゆず季や美闘陽子など。ゆず季は1期生という括りかわからないが、陽子は1期生のようだ。

先日、HDD（ハードディスク）で、スターダムの過去の映像の試合を見ていたら、タッグチーム王座の歴史（スターダムではゴッデス・オブ・スターダム王座と呼ぶ）がやっていた。第8代王者チームになる、イオ&岩谷麻優のサンダーロックというタッグは、麻優が二段式ドラゴン・スープレックス・ホールドを決めて勝利。すると映像では、イオが麻優の左頬にキスをするという映像が流れ、女性同士だけど、なんてオシャレな光景だろうという感じで、私は見ていた。2人共非常に嬉しそうだった。

そのサンダーロックは、試合中のイオの裏切りという形で、消滅する。これは、ユーチューブで見たイオ&麻優 - カイリ&陽子のタッグマッチで、イオが突然、麻優を殴り、麻優はフォールされた。カイリや陽子も敵ではなかったから、試合後、麻優の元に集まった。カイリも「イオさんどうしちゃったんでしょうね」と困りながらマイクで喋っていた。すると、イオが覆面の選手を連れて戻ってきた。イオは「私は、今後はこの子を育ててやっていく！」と言い、ファンからは「AZM（アズミ）だろ！（笑）」というファンの声も飛んでいたが、イオはそれを告げると去っていった。すると、ファンからは「宝ちゃん（宝城カイリ）、なんとかしてー！」という声も響き、結構あちらこちらから「カイリ！」もあるけど、「宝ちゃん！」という呼び方がスターダム時代は多かったように思った。

それから、ゆず季と陽子についても書きたい。私は、残念ながらこの2人の現役時代をほとんど知らない。当時はワールド・オブ・スターダムがなかったのか、2人共、ワンダー・オブ・スターダム王者にはなっているが、ワールド・オブ・スターダム王座を獲ったという記述がない。でも、タッグのゴッデス・オブ・スターダム王座には2人で獲ったのも含め、獲得している。

ゆず季は、美人でバストが100センチの巨乳だが、太っているわけでもなく小柄で、スターダムの旗揚げ初め、さまざまな芸能活動もこなしている。2011年と2012年には年間女子プロレス大賞を2年連続獲得。最近はヴァンガードのCMにも出演している。

陽子も美人だ。私の中では、Bドライバーという技を広めたという印象がある。「美闘陽子」という名前もかっこいいし、ユーチューブにあるかもしれないが、試合も見たい。

今のスターダムの選手達も十分楽しいので、歴史に負けずに頑張っ欲しいものだ。（終）

2020年7月22日（水）

舞華（ドンナ・デル・モンド）は、気も強いが、清楚で超かわいい！

舞華は、女子プロレス団体、スターダムに参戦している。リーダーのジュリアと、朱里、舞華、ひめかの4人で、ドンナ・デル・モンド（DDM）というユニットで活躍中だ。今は黒い色のロングヘアーだが、以前のTAKAみちのく率いる団体JUST TAP OUTの時代は、白いロングヘアーをしていた。私は、本当は舞華の年齢を知りたいのだが、公表はしていない。でも、スターダムのリングでも、まだ幼さも残るようなかわいさで若そうである。それにしても、ドンナ・デル・モンドは、綺麗なジュリアを筆頭に、朱里も優しそうだし、舞華もかわいいし、ひめかも体躯は大きく“ジャンボプリンセス”とニックネームがあるようだが、顔はかわいい。ジュリアのビジュアルの良い選手を集める能力はセンスがある。

私は、星輝ありさという選手のファンだったが、おそらく怪我が理由で引退してしまったので、次に応援する選手を探していた。確かに岩谷麻優はスターダムのアイコンとしてかわいが、それを超えるか並ぶくらい、最近では舞華のファンになってきている。だが、私はどちらかというと細身か普通の体躯の選手が好きなのだが、ひめかは、顔は舞華に似ていてかわいが、体躯が大きいというわずかな差があるだけだ。そういう意味では、私は、林下詩美も優しそうが好きなのだが、体躯が大きいということが少し気になる。でも、舞華は詩美をプロレスデビュー前からライバル視していて、同じ柔道をベースとした戦い方をしている。舞華の柔道歴は相当長いようで、それは詩美よりも長いらしい。私が知っている範囲では、昔のフューチャー・オブ・スターダムというタイトルマッチで、詩美が舞華に勝った時から、DDMのジュリアは舞華に目をつけていたらしい。（今、舞華はフューチャーの3代目王者になった）。そして、今年のシンデレラトーナメントでは1回戦で、舞華 - 詩美が再度実現したが、10分時間切れ引き分けで、両者失格となった。舞華も詩美もかなり悔しがっていたが、舞華はかなり熱い物を持っているな、と感じた。舞華の柔道殺法は、ベースで凄いが、私はまだ、舞華の山茶華（さざんか／元、舞華カッター）を見たことがない。

かつて、JUST TAP OUTという団体では、舞華は女子ではTOPを張っていたようだ。TAKAみちのくの団体を悪く言うわけではないが、スターダムという大海にきたら、更に強い女子レスラーがたくさんいて、舞華はスターダムにおいて、どのレベルのポジションを目指すのが注目である。スターダムの3人王座、アーティスト・オブ・スターダムは、ジュリア、朱里、舞華で獲得した。もしかしたら、これは舞華がプロレス界では初の王座獲得かもしれない。同じユニットのボス、ジュリアがトップクラスで実力もあり、気性も強いので、舞華はシングルでは「ジュリアさんを抜くのは難しいかも……」と考えてしまうと、スターダムでトップクラスに立てない。まずは詩美を倒すという考えでもいいかもしれない。DDMでもスターダムをかき回して欲しい。とにかく私は舞華を、ありさの後継者として推していきたい。舞華のことはこれからもっと知っていきたいが、一生懸命で清楚で超かわいい！（終）

2020年8月18日（火）

鹿島沙希が、ジュリアに、「こんな、もやしみたいなの奴に負けて、今、どんな気持ち？」

先日、スターダムで、●ジュリア&舞華&ひめか（ドンナ・デル・モンド/DDM） — 刀羅ナツコ&○鹿島沙希&夏すみれ（大江戸隊）の試合が行われた。沙希が必殺技、起死回生で、当時、スターダムに移籍以来、自らがフォール、ギブアップなどを取られたこともなく無敗だったジュリアから、初めてフォールを奪い勝利した。試合後、レフェリーに掴みかかるジュリアに対して、沙希は「なあ、お前なあ、こんな、もやしみたいなの奴に負けて（沙希は体躯が細いからか）今、どんな気持ち？」と言ったので、沙希は勝っておきながらも自らを「もやしみたいなの奴に負けて、今、どんな気持ち？」と言ったので、私は面白くて笑ってしまった。

『【実録】昭和 平成 女子プロレス秘史』（[スターダム代表] ロッシー小川／彩図社）参照。
・沙希は島根県出身で、当時17歳。か細い美少女はプロレスが大好きで、（中略）とにかく明るくてよくしゃべる。（中略）二期生として入門した。
・私は以前、沙希と話している最中にペットボトルを投げつけたことがあったが、本人はまるで覚えていないようだ。生半可な返事をした沙希に「話す時は人の顔を見ろ！」と怒ったのである。（中略）沙希のことは気になっていたから復帰の話は嬉しいことだった。（以上、引用）。

ユーチューブで「戦う女#9」マイ・エンブレム 鹿島沙希 という番組で、登場した時、沙希はやはりとても綺麗な女性だった。そして、ロッシー小川さんの本にもあった通り、インタビューに対してもちゃんと受け答えして、よく喋る女性だと思った。このインタビューはヒール（悪玉）ユニット、大江戸隊に入ってから受けたインタビューではあったが、一般的な形で言えば、ヒールの選手はヒールらしいインタビューをするが、沙希は素直に「この大江戸隊になってからのファンや、今までのファンも嬉しい」と語るなど、そういうところが嘘がなく、純粹で新鮮で良かった。沙希はベビーフェイス（善玉）軍団のSTARSというユニットに所属していたが、同じSTARSの岩谷麻優を裏切って、大江戸隊に移籍した。そして、新型コロナウイルス感染が始まる時期の2020年3月8日、後樂園ホールで、無観客試合ながら、沙希と麻優はランバージャックマッチ（リング外に落ちたら回りのセコンドがすぐにリング上に上げる形式の試合）で戦ったが、大江戸隊が麻優を後樂園ホールの後方の席に運ぶなどルール無視。沙希も麻優を最上段から蹴りを食らわすと、後方回転で麻優は20メートルほどの階段を転げ落ちてしまった。しかし、最後は麻優が沙希をズームストーン・パイルドライバーに捉えると、そこからムーンサルト・プレスを決めて3カウント勝利。○岩谷麻優 — ●鹿島沙希という決着だった。

沙希の夢は、「スターダムのトップにはワールド・オブ・スターダム王座（通称、赤いベルト）があり、それを地元、島根県に王者として凱旋したい」と言う。叶えて欲しい。（終）

2020年8月20日（木）

ひめか、同門（ドンナ・デル・モンド）、年上のジュリアにも、勝利して呼びつけ！

女子プロレス団体、スターダムで、今、『STARDOM 5☆スター GP 2020』（『5☆スター GP』）というリーグ戦が行われている。私も詳しくはないが、新日本プロレスでいうところの『G1 CLIMAX』にあたるような大会だろう。

この大会のまだ、それぞれ2戦目辺りを消化した段階の話だが、スターダムの団体には、最近、ドンナ・デル・モンド（DDM）というユニット（ジュリア、朱里、舞華、ひめか）が登場しているが、このユニットが強い。

『5☆スター GP』では、初戦を終えて、ドンナ・デル・モンドの4人がそれぞれ1戦目を勝利で終えて、リーダーのジュリアを中心に「このまま DDM の4人が連勝し続けます」とマイクで喋ったが、他の3人が「直接対決もあるから、4人が連勝するのは無理でしょ」と突っ込む形となった(笑)。でも、ジュリアは最後まで「DDM の4人が連勝していくので、よく見とけよ！」と言って、その日は締めた。

第2戦目では、私はユーチューブで見たのだが、試合は放送されておらず、試合後のマイクの部分だけが放送されていた。見ていると、同じ DDM の同門対決で、ひめかがジュリアからフォールを奪い勝利したようだ。ジュリアはスターダムに来てから、シングルマッチで負けたのは、これが初めてだった。私の勝手な見立てで言うと、DDM では、リーダーのジュリアに対して、朱里と舞華は一步引いたポジションにいたように見えた。それが、ひめかはジュリアがリーダーだろうが関係なく、DDM を踏み台にしてでも TOP に立つくらいの強い意志を感じたし、この『5☆スターGP』でも“ひめか旋風”を起こしているようだ。このユーチューブの映像でも、「おい、ジュリア！」とか「お前！」と言うなど、年上のジュリアにも関係なく言い放った。一応、最後は4人でポーズを取っていたが、ジュリアはちょっと離れた位置に外れていた。

DDM の4人は、それぞれ、スターダムの生え抜きではなく、違う団体からやってきて、4人共最近スターダムと契約するとか、参戦しているようだ。なので、ジュリアが以前言っていたが、「ひめかとは違う団体で何度も戦っているから……」と言っていたので、ジュリアが DDM にひめかを勧誘したのもおそらく、そういうところを見ていたからだろう。だから、呼びつけで呼ばれるのも想像通りだったかもしれないし、ジュリアの勢いを止めてしまうくらい強い“ジャンボプリンセス”と呼ばれる選手を連れてきたのも、計算通りかもしれない。もしかしたら、そこは、ジュリアは逆に計算外だったかもしれない。

ひめかはマイクで名言？ を残した。「デカイは、強い。デカいは、正義。そして、デカいは、かわいい」と(笑)。そして、『5☆スターGP』全勝、優勝、宣言をした。

バックステージのインタビューでも、「見に来ている奴ら、見に来てねえ奴ら、何も言えないんじゃないかねえか！」と言い、強気な一面も見せた。今後のひめかの動向に注目だ！（終）

2020年9月10日（木）

スターダムの、12人の水着（ビキニ）の写真集の表紙は、皆、キレイだった！

『週刊プロレス 8.26 2020 No. 2078』（株）ベースボール・マガジン社）参照。

スターダムの2020年8月14日発売の、12人の女子プロレスラーの写真集が発売されるという告知があり、その宣伝の写真が2ページにまたがって貼られている。

掲載選手は、岩谷麻優、中野たむ、スターライト・キッド、渡辺 桃、AZM、林下詩美、ジャングル叫女、小波、ジュリア、朱里、舞華、ひめか、の12人で、ユニットは、STARS、クイーンズ・クエスト、TOKYO CYBER SQUAD、ドンナ・デル・モンドの4ユニットで、大江戸隊はヒールユニットの為か、残念ながら登場していない。

素直に、スターダムという団体のせい、か、12人共綺麗である。あんまり個人的に書くと失礼なので集中的には書かないが、例えばビキニだからわかるが、胸が大きい娘（こ）も数人いる。写真に撮られるのが慣れているような娘もいる。STARSはキラキラした感じ。クイーンズ・クエストは明るい感じ。TOKYO CYBER SQUADは楽しい遊び心の感じ。ドンナ・デル・モンドは普段はクールな感じだけど、この写真では優しい大人の感じ。

スターダムのエグゼクティブプロデューサーのロッキー小川さんは、こういう時、ユニット同士の抗争相手であるとか、仲が悪いということがあったとしても、写真集を作るとなれば、一緒に写真で撮影してしまうのだろう。こういう1本の柱の人がいると、スターダムという団体の女子レスラーとしても団結するのかもしれない。（一応、大江戸隊はあえて呼ばなかったのだろうが・笑）。この女子プロレスの手腕にかけてはロッキー小川さんの右に出る者はいないのではないだろうか？

やはり少し、個人的なことを書くが、舞華は左手で黒い髪をかき上げてカメラに向かって悩殺する視線やポーズがたまらない。私は38歳だが、それより1歳年下の歌手に倉木麻衣さんがいるが、美しさや雰囲気はそのくらいのもがある。益々、美人になって欲しい。

ジュリアは金色の円をバックに両手を上げて、「バツ！」とカメラを見つめる写真があるが、こういう絵はこのスターダムの面々ではジュリアしか出せない味だと思った。強さすら感じさせてくれる。

ひめかも詩美も体躯が大きくても、やはり改めて書くと胸も大きいし、写真に普通に綺麗に納まるという面を持っている。そしてAZMは予想外に胸が大きい。

叫女と小波はユーチューブでも、水鉄砲などで遊んで、皆とは違う楽しさを演出していたけど、それが非常に似合っている。

朱里は意外と細身の身体に見えるが、いつ見ても優しそうな女性だ。

桃は、若さがあり綺麗だが、今よりも更に美しくなれると思う。

スターライト・キッドはマスクマンでかわいい。麻優は細身だけど、綺麗だし、少し歌手のあいみょんさんチック。たむは写真を撮られ慣れている、面白い面もたくさんある。（終）

2020年10月4日（日）

小波の「トライアングル・アームロック」は100%の勝率！

女子プロレス団体、スターダム寝業師といえば、小波である。ユニット、TOKYO CYBER SQUAD で、ジャングル叫女と共に、やや中堅女子プロレスラーのイメージがあるが、最近ではトップを狙える位置にいる。今は、ワールド・オブ・スターダム王座は、王者の岩谷麻優に、挑戦候補が、朱里、彩羽匠、林下詩美と列が並んでいるので、ワンダー・オブ・スターダム王者を狙えば、もしかしたらシングル王者初戴冠の可能性もある。

『We are Stardom!!』をユーチューブで見っていたのだが、現在よりもだいぶ遅れたものが放送されていた。スターダム5☆グランプリを優勝したのは林下詩美であるから、小波もどこかで敗れてしまったのだろう。優勝はならなかった。

私は、今、新日本プロレスで背広組の仕事に回っているという、新日本の元、プロレスラー一井上亘は、現役時代、必殺技にトライアングルランサーという100%の勝率を誇ると言われる技を使っていた。特に男子だから、女子よりも身体が堅い人が多いので、より勝率が高かった。そして、以前、井上は小波にトライアングルランサーを実演して伝授した。そうすると、小波のトライアングルランサーを受けた女子選手は悲鳴を上げて痛み、ジョークではなく泣く選手もいて、100%の勝率を誇っていた。

しかし、徐々に研究されたのか、女子は身体が柔らかいものもあるが、ロープエスケープを許すことも多くなって=（イコール）100%の勝率を誇る技ではなくなった。そして、スターダム5☆グランプリを迎えたが、小波には秘策があった。3戦目の相手が現、ワールド・オブ・スターダム王者の麻優。4戦目の相手が現、ワンダー・オブ・スターダム王者のジュリアだったが、もしかしたら小波はトライアングルランサーをおとりに使ったのかもしれない。そこで、麻優もジュリアもエスケープできたが、すぐに三角締め体勢に入ると、腕をロックして締めた。これには、麻優もジュリアも結構派手にタップをして、2大王者から連続ギブアップを獲得したのだ。勝率100%。その名もトライアングル・アームロックという技で、トライアングルランサーの派生技ということのようだ。だが、いつかは小波のこの技も破られてしまう日が来るのかもしれない。それは小波も承知だろう。

しかし、何より、小波は2大王者2人から勝利を奪っているのだから、タイトルに挑戦する権利は十分にあるはずだ。だが、どうしても職人気質も強い選手なので、タイトルを獲るとしたら、王者像は以前スターダムにいた、元、ワールド・オブ・スターダム王者、花月のようなレスリング技術が高い職人気質のトップ選手を目指せばいいかもしれない。

WWEでも、ジ・アンダーテイカーのツームストーン・ドライバーは100%の必殺技と呼ばれていたが、ブロック・レスナーやローマン・レインズによって返されてしまい、100%ではなくなっていった。小波もトライアングル・アームロックを100%になるぐらい大事に使い、王座を狙って欲しい。（終）

2020年11月2日（月）

舞華、フューチャー王座防衛。白いベルト戦、ひめか、ジュリアに負けて涙。

女子プロレス団体、スターダムの、新しい試合結果のユーチューブが上がっていたので、それぞれ10分程度にまとめられていたが見た。ユニット、ドンナ・デル・モンド（DDM）特集になる。私が今思う、スターダムで、1番美人でかわいくて好きな女性プロレスラーの舞華が、上谷沙弥を破って、フューチャー王座を防衛した。試合後には、飯田沙耶が登場して、次期挑戦者に立候補した。元々、舞華は以前、沙弥と沙耶との巴戦を制して、フューチャー王者に輝いていたが、その後、舞華のフューチャー王座に誰も嘯みついてこなかった。だから、王者の舞華のほうから、「上谷沙弥、挑戦して来い！」と言って実現したカードのようだ。

バックステージでインタビューを求められた舞華は、恐らくまだ若いのに、柔道なども経験があるし、WWF（ワールド・レスリング・フェデレーション／現、WWE）に所属していた、TAKAみちのくのJAST TAP OUTという団体で女子のトップとして鍛えられていたこともあって、堂々としている。私は以前、歌手の倉木麻衣さんに近いと書いたが、清楚な感じは似ている。でも、舞華は毒舌を吐くわけではないけど、もうちょっと喋り方の感じで言えば普通を感じ。倉木さんは明るい感じだ。私は舞華のほうに夢中だ。舞華は「条件内なら誰でも挑戦できるのだから、言ったもん勝ちなのに挑戦者が少ない、団体からも人気がないベルト」と言い、「林下詩美は自分である地位まで行ったけど、それは凄いが、私には今、やるべきことがある」と話すなどコメントもしっかりしているな、と思った。将来は白いベルトや、赤いベルト、ゴッドスのベルトなどを獲得して欲しい。私は、舞華選手を益々、応援している。

ワンダー・オブ・スターダム（白いベルト）選手権では、DDMの同門対決となり、ジュリアが、ひめかを破ったようだ。以前、「STARDOM 5☆GP 2020」で戦った時は、ひめかがジュリアをパワーボムで破り、ジュリアに、スターダムでのシングル初黒星をつけたのが認められたのだろう。この試合ではジュリアがひめかに勝った模様だ。ひめかは本気で白いベルト獲得を狙って、のし上がろうと考えていたのかもしれない。試合後、ひめかは、ジュリアと握手する時、本格的に泣いていたので、相当悔しかったのかもしれない。ジュリアも、バックステージで、「試合の時の、ひめかは怖かった！」と語る。ジュリアは2度目の防衛に成功である。話は逸れるが、DDMの5人（なつぽい、も加入した）は、皆、綺麗だが、ひめかは、元、アイドルということで、あか抜けたかわいさというのはあると感じる。

あとは、朱里がロッキー小川エグゼクティブプロデューサーと共にインタビューをして、スターダムの所属選手になることが決まった。朱里は団体のトップで引っ張る的な雰囲気があれば、まともに戦ったら一番強いので、所属は期待させてくれそうだ。（終）

2020年11月3日（火）

舞華（福岡県出身）のソフトバンク？ と、私の巨人軍。野球、日本シリーズ？

38歳の、女子プロレス好きの男の、勝手な妄想？ と捉えていただきたい。

私は、スターダムで今、一番好きな女子プロレスラーは舞華である。綺麗だ。

その、舞華の出身は福岡県。今年、舞華の中でライバル視しているという、林下詩美に、遂に初勝利した場所も、福岡県という情報を聞いた。その日は、舞華のかつての柔道の先生や家族なども応援に駆け付けたということで、それだけの人との関係も大切にして、多く訪れてくれるというのも、舞華の人間の器の大きさを感じる。その、舞華は福岡県出身と書いたが、今年の2020年のプロ野球のペナントレースでは、パ・リーグでは、福岡ソフトバンクホークスが優勝を飾った。もしかしたら、舞華は福岡県出身だから、ソフトバンクのファンの可能性はある。もしくは、「あまりプロ野球には興味はないけど、地元が福岡だから、ソフトバンクが優勝したらいいね」くらいには考えているかもしれない。

私は、東京都出身。だからというわけではないが、昔からプロ野球は巨人戦ばかりを見て、巨人を今年も応援している。そういえば、去年は日本シリーズで、巨人 - ソフトバンクが戦い、巨人から見て、0勝4敗で、ソフトバンクが日本一になった。巨人軍の原辰徳監督が悔しさをジョークに「去年、日本シリーズありましたっけ」と言っていたが、私も、嘘偽りなく、そのくらい記憶から消えているイメージだ。ちなみに今年は、巨人軍はセ・リーグで優勝したので、日本シリーズ進出が決まっている。一方のソフトバンクは、ポストシーズンを2位のチームと戦って、勝たないと日本シリーズには出られない。だから、まだ、巨人 - ソフトバンクになるかどうかはわからない。

私の妄想は更に大きくなってしまいが、あまり気にしないで読んで欲しい。私は今、彼女（ガールフレンド）はいない。例えば、私が、舞華と付き合っていて、「家で一緒に日本シリーズを見よう」ということになったとする。そして、前述したように、舞華がソフトバンクファンだとして、私は、巨人軍のファン。しかし、こうなると、私の場合、舞華はソフトバンクを応援しているのだから、今年は巨人軍ではなくて、ソフトバンクを応援してもいい、と思うかもしれない。でも、巨人軍が勝ったなら、それはそれでいいと思うかもしれない。今年も1人で日本シリーズは見るつもりだが、巨人軍に日本一になって欲しいが、ソフトバンクは強いから、そう簡単にはいかないだろうと思っている。舞華との温もりを想像したら、その一緒にいられる時間が幸せだと思うのだ。

普通の世界に戻るが（笑）。だけど、私は、舞華がソフトバンクのファンかどうかはリサーチ（調べる、調査）したいと思わない。そのうち自然と知ってしまったらしょうがないが。でも、舞華がソフトバンクファンだと知れば、今年、巨人が負けても、舞華が喜ぶなら嬉しいから、諦めようと思えるかもしれない。以上、変な文ですみません。（終）

2020年11月15日（日）

林下詩美が岩谷麻優から、赤いベルト奪取！ 逆転の女子プロレス大賞か？

女子プロレス団体、スターダム、仙台サンプラザホール大会で、アイコン（象徴） — NEW ERA（新しい時代）。ワールド・オブ・スターダム（赤いベルト）選手権、（王者）岩谷麻優 — （挑戦者）林下詩美が対決した。私の中では予想通り、新しい波をスターダムに起こすべく、詩美が麻優を BT ボムでくだした。詩美は初の赤いベルトの王者となった。麻優はこれまで2回赤いベルトの王者を獲得していて、これが6度目の防衛戦だったが、ロッシー小川エグゼクティブプロデューサーの考えでは、確かに、詩美が王者になれば新しい時代を作れるという期待もあっただろう。しかし、麻優は使い勝手がいい王者になっていた。麻優は、朱里、彩羽匠との対決では明らかに王者の移動はない相手だった。だが、スターダム5☆グランプリ2020を優勝した詩美との頂上対決では、私は確実に詩美を新王者にするべきだと思った。試合後は、新王者の詩美の元に、ジュリア、朱里、渡辺桃が挑戦表明をしたようだが、今回は少しトーンダウンで詩美は桃を選択した。しばらくは詩美の防衛ロードが続くだろう。

セミファイナルでは、ワンダー・オブ・スターダム（白いベルト）選手権、（王者）ジュリア — （挑戦者）小波が対決したが、グロリアスドライバーでジュリアが勝利した。この辺は安泰と言える。ジュリアは、去年からスターダムに登場したが、ライバル、木村花、中野たむ、同門（ドンナ・デル・モンド）だが、ひめかななどと抗争、話題性もあった。そして、アーティスト・オブ・スターダム王者を取り（今は失ったが）、白いベルトの王者にも輝いた。

フューチャー・オブ・スターダム選手権、（王者）舞華 — （挑戦者）飯田沙耶では、舞華が炎華落として勝利して防衛した。私の、現、スターダム、ナンバーワンの推しで好きな女子プロレスラーは舞華なので、書かせていただいた。

女子プロレスラーは、年末の東京スポーツ、プロレス大賞の為にやっているわけではないと思うが、その賞には女子プロレス大賞というものがある。私が候補に挙げるならば、麻優か、ジュリアか、詩美の3人のうちの誰かだと思っている。前述したように、麻優が、赤いベルトの試合で詩美に負けたので、麻優は今、丸腰状態。でも赤いベルト5度の防衛を果たした。ジュリアは特に話題性が多い1年だった。シンデレラトーナメントも優勝しているので、それも含めると1番候補とも言える。しかし、競馬で言えば第4コーナーを回ったところで詩美が強烈な追い上げを見せた。今、ゴッデス・オブ・スターダム王者も持っている。

あとは、11月、12月の最後の押しを誰がするのかで、おそらくこの3人から決まる。（終）

2020年11月19日（木）

ユニット、ドンナ・デル・モンドの5人に膨らんだメンバーを整理。

女子プロレス団体、スターダムのユニット、ドンナ・デル・モンド (DDM) は (ジュリア、朱里、舞華、ひめか、なつぼい) の5人である。オリジナルメンバーは (ジュリア、朱里、舞華) であったが、その後、ひめか、なつぼいが加入して5人に膨らんだ。この5人とも、スターダムの生え抜き選手ではなく、違う団体から移籍した。

リーダーはジュリアである。『個』の能力が高く (朱里も高い)、ライバルも多い。イタリア人と日本人の両親の元で生まれたハーフ。褐色の肌をしている。そして、そのビジュアルはとてもしっかりいい。今は、ワンダー・オブ・スターダム王者に輝いており、「スターダム シンデレラトーナメント2020」も優勝した。アーティスト・オブ・スターダム王者にも輝いた (パートナーは朱里、舞華)。今後は更に話題性を作っていけるかに注目。

朱里。UFC (アルティメット・ファイティング・チャンピオンシップ/MMA 団体) で日本人の女性選手として、(正確には、フィリピン人と日本人の両親の元で生まれたハーフだが) 初めて勝利した選手である。スターダムの最強外国人のビー・プレストリーには、「朱里は堅いレスラーだね」と言わせるほどの、格闘センス抜群の強く厳しい攻めを見せる。

舞華。現、ワールド・オブ・スターダム王者に輝いたばかりの林下詩美を、追うようにしてプロレス団体に入団。柔道の経歴は長い。ちなみに詩美も柔道をベースにしている。私は最初から舞華が好きだったが、今も舞華が一番好きである、綺麗だ。舞華は若いせい、フューチャー・オブ・スターダム王座のチャンピオンで、今はまだ若手のレスラーとのシングルマッチが多い。しかし、トップ戦線でも戦っているから、将来も期待できる。

ひめか。おそらくジュリアの誘いで他団体からやってきた、ひめか。名言「でかいは強い、でかいは正義、でかいはかわいい」と言い、アイドル出身だった。シングル無敗の同門、ジュリアから初めてフォール勝ちを奪った。敗れはしたが、ジュリアのワンダー・オブ・スターダム王座にも挑戦した。いつDDMを裏切ってもおかしくないかもしれない (笑)。

なつぼい。横浜武道館で (X) として現れた。万喜なつみこと、なつぼい。小柄だが、明るい顔をして、受け答えも面白く、白い肌をして、微妙に腹筋が6つ (6パック) に割れているところがセクシー。やはり、最初はハイスピード王座を狙うのか？

やはり、私はドンナ・デル・モンドから見始めた人間だから、今後も応援してゆく。(終)

2020年11月23日（月）

ジャングル叫女は、優しくて、かわいい。 チームじゃんぐるってる。

私のスターダム所属、STARS の、ジャングル叫女の印象は、とにかく優しそうでかわいいというイメージだ。私の中では、失礼な意味ではなくカイリ・セインをもう少し膨らました感じの顔をしている。決して太っているとかそういう意味ではなく似ているという感じだ。

身長は156cm と小さいが、林下詩美やひめかが入団するまでは、スターダムで一番パワーがある日本人女性プロレスラーは叫女だったと言われている。

経歴は、アントニオ猪木と似ていて、陸上競技をやっていた。ハンマー投げと砲丸投げでインカレに出場したというところも、ヨットでインカレに出場したカイリに似ている（笑）。ハンマー投げでは、室伏広治さんの父、室伏重信さんからも指導を受けたようだ。

現在は、左膝前十字靭帯と右膝外側側副靭帯の断裂及び右肩・肩鎖関節完全脱臼の手術のため長期欠場。足2か所と、肩1か所を怪我したとあって、正直、それだけの怪我がありながら復活できるものなのか？ と心配したが、復活に向けて準備しているようだ。

まだ、シングルの、ワールド・オブ・スターダム王者（赤いベルト）や、ワンダー・オブ・スターダム王者（白いベルト）は獲得していないが、ゴッデス・オブ・スターダム王者（タッグ王者）や、アーティスト・オブ・スターダム王者（3人タッグ王者）は多く獲得した。

私も昔の映像で見たが、今、大江戸隊というヒール（悪玉）ユニットのリーダーの、刀羅ナツコとも、ゴッデスやアーティストのタイトルを一緒に獲ったことがあるのが意外だ。先日までは、ライバルユニットで抗争していたが、私が勝手に深読みすれば、叫女とナツコはどこか信頼関係で結ばれているのかもしれない。

亡くなった、木村花さんがリーダーを務めていたユニット TOKYO CYBER SQUAD では、リーダーが不在となり、叫女と小波が、写真撮影で、おもちゃの水鉄砲を持って仲良くしていたが、小波の裏切りも致し方ないところもあり、ユニットは解散した。小波は大江戸隊へ、そして、叫女は STARS 入りを果たした。

ニックネームは怒涛の密林パワーとあって、青年海外協力隊員として、セネガルに2年間体育教師として派遣された。だからか、顔の目の下には（トニー・ストームは黒だけど）、カラーのシールが貼ってある。まずはゆっくり怪我を直して、元気な姿を見せて欲しい。（終）

2020年11月28日（土）

朱里は、ドン・フライのように格闘技は強いが、最高位王座は取れるのか？

女子プロレス団体、スターダムに正式に所属した朱里。ユニット、ドンナ・デル・モンドのメンバーでもある。

スターダムでは、アーティスト・オブ・スターダム王者（パートナーは、ジュリア、舞華）を獲得している。そして、もう1つ、SWA 世界王座「Stardom World Association の略だが」を最近獲得して、スターダムの最高位王座のベルトではないが獲得している。

朱里は UFC で、アジア人として初めて勝利したという実績がある。

しかし、男子の UFC ファイターでは、ドン・フライは新日本プロレスで、ケン・シャムロックは WWE で、あれだけの経歴と実力を持ちながら、プロレスで最高位王者に輝いたことはない。

朱里はそれでも、日本のさまざまな団体で、どのくらいのレベルのベルトかはわからないが、ベルトは結構獲得している。よく調べると、今、AEW で活躍する志田光と、さまざまな団体で3回もタッグ王者に輝いている。もちろんシングルのベルトも多い。

スターダムでは、ビー・プレストリーから、SWA 世界王者を奪った。だが、それ以前は、その強さを評価されてか、スターダムの最高位王座、ワールド・オブ・スターダム王座に挑戦したが、敗れている。さすがに1回目ですぐ取れるとは私も思わなかったが。

フライのような実力があり、朱里も MMA 出身という意味では同じだ。だから、明らかに朱里は強い。打撃も強ければ、関節技もヤバイくらいに痛いし、レパートリーがある。似たような MMA 出身のフライを持ってしても、新日本では IWGP ヘビー級王者にはなれなかった。

だから、朱里も強いことは証明されているけど、やはり、フライと同じでプロレスの世界であるから、団体を引っ張っていくにふさわしい最高位王者でないといけない。朱里は強いという意味では、スターダムのトップクラスだろうが、あとはロッキー小川エグゼクティブプロデューサーやファンが、朱里を最高位王座として、認めるかだけということだ。（終）

2020年12月15日（火）

中野たむは、こんな形で STARS を離脱して良かったのか？

女子プロレス団体、スターダムユニットは、STARS、クイーンズ・クエスト、大江戸隊、ドンナ・デル・モンド（DDM）に続いて、中野たむの STARS からの派生ユニット、コズミック・エンジェルス（たむ、白川未奈、ウナギ・サヤカ）がある。これで5ユニットだ。ちなみに、TOKYO CYBER SQUAD（TCS）は、負けたらユニット解散マッチで、敗れて消滅した。

そう考えると、コズミック・エンジェルスが増えたが、5ユニットの状態に戻っただけだ。

しかし、私の理想を言えば、STARS の中にあるコズミック・エンジェルスというユニット、というやり方でも良かった気がする。

たむが、新ユニット、コズミック・エンジェルスを組んだことには、いろいろなことが考えられる。

スターダムのアイコン、同じ STARS だった岩谷麻優は、「たむは『麻優さん、麻優さん』と言ってきて、とてもかわいいんです」と言っていたそう。

しかし、TCS からジャングル叫女、ゴキデンです☆……などの STARS への加入で、たむ的には、「このまま行くと、私（たむ）は、麻優さんとの2トップではなくて、新加入したメンバーと一緒に埋もれてしまう」と考えたのかもしれない。

それから、DDM のジュリアとの抗争で、ワンダー・オブ・スターダム王座にあと一歩までいって実力も見せつけた。だから、たむは、「私が新ユニットのリーダーになって、政権交代する」と思ったのかもしれない。

麻優の話をすれば、ワールド・オブ・スターダム王座を、林下詩美から奪われた。しかし麻優は、そこでゴッデス・オブ・スターダム・タッグリーグで組んだのは、たむではなくて、スターライト・キッドだった。おそらく、たむもこのタイミングで独自で動いていて、未奈とタッグチームを組んだ。

たむは「私は麻優さんがいるから、STARS にいけば2番手扱いで終わってしまう、私は新ユニットを作る」と思ったのかもしれない。ユニットのリーダーであれば、シングルの王座にも挑戦しやすいだろう。もちろん試合後など、コズミック・エンジェルスは、独自のパフォーマンスなどで、たむは、未奈やサヤカとともにお客さんを楽しませているが。

たむには理想の STARS の姿があったのだろう。新ユニットで自分色に染めるのか？（終）

2020年12月22日（火）

林下詩美やはり王者の貫禄！ ジュリア — 朱里は引き分け！ 舞華はベルト落とす！

女子プロレス団体、スターダムが、2020年12月20日（日）、エディオンアリーナ大阪第1競技場で興行をおこなった。

全7試合の中から、数試合だけをピックアップして書きたいと思う。私は、試合結果と、わずかなコメントしか知らないが。

まず、セミファイナルの、ワンダー・オブ・スターダム（白いベルト）&SWA 世界二冠選手権試合は、（白いベルト王者）ジュリア — （SWA 世界王者）朱里の、ユニット、ドンナ・デル・モンド（DDM）同門対決がおこなわれたが、30分時間切れ引き分けに終わった。

スターダムはいつも大きいタイトルマッチでも、基本は30分引き分けで終わる。少し昔のプロレスチックな結果になるから残念だが、この試合の場合、いろんな意味でスターダムは勝敗をつけられなかったと思う。

例えば、朱里が勝って、白いベルトを獲る。すると、ジュリアはワールド・オブ・スターダム（赤いベルト）を狙うという流れも考えられた。しかし、赤いベルトは林下詩美の王者防衛ロードがまだ必要だし、ジュリアは白いベルトをもう少し防衛しないと、女子プロレス大賞も貰ったのに丸腰になるのは避けられないということがあった。

DDM 内でのジュリアをリーダーとする序列か？ 年長の朱里か？ という選択も難しかったのだろう。でも、いつか普通のルールで決着をつけて欲しい。2人共、防衛に成功。

メインイベントのワールド・オブ・スターダム選手権試合、（王者）林下詩美 — （挑戦者）渡辺桃の試合は、BT ボムで詩美が防衛した。

この試合はさすがに一発目から、詩美がベルトを取られるケースは考えられなかった。予想通りの勝利と言えたのではないだろうか。第1試合でフューチャー王座を落とした舞華がライバルの詩美に次の挑戦者として名乗り出た。福岡県（舞華の地元）で1回舞華は詩美に勝っているが、スターダムは詩美の赤いベルトの防衛ロードを描いているはずなので、舞華は奪うのは難しい。舞華ファンの私としては、舞華に赤いベルトを巻いて欲しいが。

フューチャー・オブ・スターダム選手権試合、（王者）舞華 — （挑戦者）飯田沙耶 — （挑戦者）上谷沙弥は、沙耶が沙弥を破り新王者へ。舞華は自分が負けずして、ベルトを奪われた。飯田は「フューチャーのベルトを巻けるのを、キャリア3年以内と希望した」。

アーティスト・オブ・スターダム選手権試合、イリミネーションマッチ。では、コズミック・エンジェルスが STARS を破り、これで中野たむは、STARS から完全独立したようだ。（終）

2020年12月24日（木）

舞華の試合や、舞華の解説！ “NXT” 柴雷イオや、“AEW” 志田光の動き！

女子プロレス団体、スターダムの『We are STARDOM！！』を見た。

全試合、2020.11.15 仙台サンプラザ。

フューチャー・オブ・スターダム選手権試合。

（王者）○舞華 11分18秒 炎華落とし〜エビ固め 防衛 （挑戦者）●飯田沙耶

舞華は、痛々しい首から背中への、白いテーピングは、どうしたんだ？

沙耶も、あかぬけたという表現は正しいかわからないけど、ますます綺麗になった。

舞華のブレーンバスターなどの、パワーは凄い。

沙耶の打ち合いからの頭突きは強烈だった。沙耶流の脳震盪ヘッドバットか？

舞華もジュリア達と、とてもハードな練習をしているというから負けられない。

舞華のリアットは、まるでハルク・ホーガンのアックスボンバー三又の槍！ 二連発。

最後は炎華落として、舞華が2度目の防衛に成功。

○渡辺桃 11分1秒 ピーチサンライズ ●ひめか

この試合は、舞華が解説ということで楽しみ。

舞華は、桃のことも評価して、もちろん仲間のユニット、ひめかも評価して、優しい人だ。

SWA 世界選手権試合。

（挑戦者）○朱里 11分31秒 青龍 （王者）●ビー・プレストリー

〜レフェリーストップ 新王者

この試合も、舞華が解説。

解説の舞華は、プロレスデビューしてから、そんなに経っていないと思うが、ビーの攻めの巧さなどを分析して話している。

舞華は「朱里は、絞め技、投げ技、関節、パーフェクトです」と語る。

朱里とビーの戦いは噛み合う。見ていて楽しいけど、ビーは朱里が堅いから、嫌だと思う。

青龍はどうやっても動けない。セメント技。

WWEの“NXT”では、柴雷イオが、リングでイスに座り「トニー（・ストーム）、カモン！」と言うと、背後から謎の女に襲われた。

AEWの“ダイナマイト”では、志田光のインタビュー中にアバドンが襲撃。光の試合中にもリングサイドにアバドンが現れると、光が攻撃。試合後、アバドンは光の首筋に噛みついて、光は出血した。かなり長い抗争が続いている。（終）

3. ビッグマッチ・大会。

2020年7月20日（月）

新日本プロレス。NEW JAPAN CUP を総括！ オカダ、タイチ、SHO 脱落、EVIL 優勝は意外！

新日本プロレスの32人で争われたトーナメント、NEW JAPAN CUP を振り返りたい。

私は、まず、1回戦を見てもないとわからなかったのが、1回戦から見ると、高橋ヒロムが本間朋晃に勝った。注目の一戦、永田裕志 — 鈴木みのるは、張り合いの末、永田がバックドロップホールドで勝利、これは少し意外だった。だが、この試合で鈴木が勝つと、鈴木 — オカダ・カズチカの好カードが組まれてしまう為、避けたとも見える。そのオカダは外道に勝利。SHO — 鷹木信悟の試合が組まれたが、ここでSHOが鷹木に勝つという小さな波乱が起きた。これで私はSHOにも期待を持った。飯伏幸太はザック・セイバーJr.との好カードをカミゴエで勝利。タイチはなんと棚橋弘至をブラックメフィストで勝利。1回戦で、棚橋と鈴木といった強豪が敗れる展開となった。

2回戦では、SANADAがSHOを破り、早くも若手として期待したSHOは敗れてしまった。タイチは1回戦の棚橋に続いて、2回戦でも飯伏にブラックメフィストで勝利。もしかしたら波乱が起きることを私は期待した。しかし、これは先に書くと、準々決勝ではタイチは負けたので、現、IWGP タッグ王者組の（棚橋&飯伏）にそれぞれ勝利したことによって、タイチのIWGP タッグ選手権への挑戦権利が、有利に発言できるという立場になった形となったのだろう。気が早いかもしれないが、もしタイチがIWGP タッグ選手権に挑戦するならば、パートナーは誰かにも期待したい。ヒロム — 矢野通の試合はややおふぎけの見ていて楽しい試合になったが、エレベーターで矢野を1階に送った隙に、ヒロムがなんとかリングに戻り勝利した。オカダは永田から勝利して、順調に勝ち上がった。

準々決勝では、ヒロムがヘビー級の石井智宏をTIME BOMB IIで破り、あわよくばジュニア戦士で優勝という期待を繋いだ。EVILは手負いのYOSHI-HASHIを、長州力のようなSCORPION Deathlock〜レフェリーストップで勝利、やや意外な選手が上がってきた。オカダは、石森太二から、トーナメント3試合続けて変形コブラクラッチで勝利。前述したが、SANADAがタイチをオコーナーブリッジで破り、タイチの革命は起きなかった。

準決勝、EVIL — SANADAのユニット、ロス・インゴベルナブレス・デ・ハポンの2人の対決は、EVILが必殺技EVILで勝利。なんとなく雰囲気からして唐突なEVILの上がりには、私は、「なんかあるな」という感じはした。オカダはヒロムに変形のコブラクラッチをかけてもギブアップしなかったが、レフェリーストップでオカダが決勝進出。

決勝では、オカダ — EVILとなったが、この試合もオカダがコブラクラッチで優勢に進めるが、BALLET CLUBの外道、高橋裕二郎らが乱入。これで流れが変わり、最後もなんでもありの手段から、EVILが必殺技EVILを決めて勝利。NEW JAPAN CUP 優勝は、初優勝のEVILとなった。試合後、EVILは正式にBALLET CLUB入りを表明した。

EVILの優勝は意外だったが、オカダや、タイチ、SHOなどにも期待したが苦杯だ。（終）

2020年10月20日(火)

林下詩美、ひめかを破り、『STARDOM 5☆STAR GP 2020』優勝！

ユーチューブの、スターダム番組、『We are STARDOM!!』で、『STARDOM 5☆STAR GP 2020 優勝決定戦』を見た。

2020、9.19 STARDOM 5☆STAR GP 2020 優勝決定戦。

レッドスターズ1位

ブルースターズ1位

●ひめか 10分19秒 トーチャーラックボム ○林下詩美

詩美と舞華がライバル関係だったけど、新しい相思相愛の、ひめか — 詩美になっている。

パワー系の対決、ショルダータックルの打ち合いは、詩美。

詩美、払い腰、大外刈り、柔道殺法。

詩美がコウモリ落としの体勢で極める、そして落とす。

お互いリアットの打ち合いだが、詩美が優勢か？

ひめかのセコンドには、ユニット(ドンナ・デル・モンド/ジュリア&舞華)がつく。

詩美、右の張り手から、スリーパーホールド。ひめかは大きなギョロ目。

ひめかは、リアットを自分の武器にしている。

ひめか、アルゼンチン・バックブリーカー〜JP コースター、2カウント。

詩美、スリーパーホールド〜逆落としだが、ひめかが体重があるせいか、ちゃんと背中に背負えないで投げた、これは修正点。

目を見開くひめか凄い。

詩美、ジャーマン・スープレックス2連発。

最後、詩美がトーチャーラックボム〜片エビ固め。

詩美が優勝。詩美がひめかに対して圧勝した感もある。デビュー3年目の詩美に対して、ひめかのレッドスターズ1位での勝ち上がりは凄いが、決勝戦はひめかの良いところが全く出なかった、詩美に封じられたのかもしれない。詩美の体軀は大きいけど、結構オフエンス(攻め)中心のタイプだから、一気にねじ伏せたのだろう。

試合後は、赤いマントと王冠が素敵。シンデレラトーナメントの時は、ジュリアが青く広いドレスを着ていた。この辺のおそらくロッキー小川さんの女性へのセンスは良い。まるで、オーバーに言えば、自分の娘が、成人式や結婚式で着るような演出。選手達もビックリして少しだけ恥ずかしいけど嬉しい、と思わせるようなビジュアルになって、これは見ている素直に感動する。

(感想) 詩美が見事に優勝した。ちなみに私の応援する舞華も頑張ったので、見事、敢闘賞を獲得していた。詩美は、岩谷麻優が、ワールド・オブ・スターダム王座を、朱里、彩羽匠から連続防衛したので、岩谷麻優 — 林下詩美の頂上決戦が実現。どうなる？ (終)

2020年11月7日（土）

飯伏幸太の言う、「本当の神になる」とは何か？

2020年10月18日の、新日本プロレス、「G1 CLIMAX 優勝決定戦」で、見事に優勝した、飯伏幸太。

飯伏の発言は2つ。「僕は本当の神になる」と、「逃げない、負けない、諦めない、裏切らない」である。

まず、「逃げない、負けない、諦めない」は何に対してだろう。例えば、飯伏に訪れる難関に関してだろうか？ そして、「裏切らない」というのは新日本のファンか？ 飯伏のファンか？ でも、飯伏のファンではない人からすれば、飯伏が勝つことは「裏切られた」と嫌らしく言えば、そうなるかもしれない。今回の決勝だって、SANADA を応援したファンからすれば、「裏切られた」という気持ちになるだろう。しかし、これはあくまで、飯伏を応援しているファンへの言葉だと思うから、「飯伏選手のファンを裏切らない」ということになるのだろう。

もう1つの、「僕は本当の神になる」も、抽象的でわかりづらい。でも、もしかしたら、飯伏はそこまでは考えていないかもしれないが、「神」という言葉を出して、ファンが「あの神って何だ？」ということをお飯伏は、時間をかけながら証明して、謎解きをさせているのかもしれない。「神とはこうです」と言ってしまったら、プロレス的に面白くない。だから、疑問を持たせて楽しんでいるのかもしれない。

飯伏は、「僕の中で神は、棚橋弘至選手と中邑真輔選手だ！」と言っている。棚橋も中邑も、IWGP ヘビー級王座を獲得して、G1 覇者にも輝いている。飯伏は G1 は優勝しているが、IWGP ヘビー級王者にはなっていない。飯伏の「僕は本当の神になる」には、IWGP ヘビー級王座を獲得する必要がある。それで、とりあえず、棚橋や中邑の果たした、最低限のレベルには追いつく。飯伏本人に聞かなきゃわからないが、その2人が既に神なら、飯伏もIWGP ヘビー級王座を獲得すれば「神になったかのヒントになるだろう」。飯伏の必殺技はカミゴエという技だが、その通りに受け取ると、棚橋、中邑の2人を超えた「神超えーカミゴエ」という領域に行きたいのかもしれない。それが、新日本でIWGP ヘビー級王座を獲って、トップに立ち、今も貢献していると思うが、プロレスをもっともっと世間に広めたいという夢があるのかもしれない。（と、『ワールドプロレスリング』の実況の方が言っていた）。

まだ、飯伏は「神」にはなっていないと思う。しつこいようだが、例えば、来年の1月の東京ドーム大会で、飯伏はやたらとこだわっていたが、内藤哲也を破って、2冠か？ IWGP ヘビー級王座だけか？ を奪うことが、流的には決まっていると思う。それで、遂に、飯伏の中で「神」になるのか？ まだ、「神」ではないのか？ は謎だ。「本当の神になる」とは、飯伏が「遂に、本当の神になりました」と言うまでだ！（終）

2020年12月20日（日）

高橋ヒロム、エル・デスペラードの正体を剥がして勝利覇者！ タッグは乱入で物足りず！

新日本プロレスの『ワールドプロレスリング』を見た。

2試合とも、12・11 日本武道館。

ベスト・オブ・ザ・スーパーJr. 27 優勝決定戦

リーグ戦2位

リーグ戦1位

○高橋ヒロム 30分14秒 TIME BOMB II～片エビ固め 覇者 ●エル・デスペラード

・レフェリーは、場外でのデスペラードのイス攻撃を見たのに、反則にしないのは、興行的に決勝戦でお客さんが入っているから止められない、日本的なルールと言える。ルールがルーズというか。これは、同じ鈴木軍の大將、鈴木みのるも和田京平レフェリーの時にやっていた。お客さんがいるメインイベントで反則をしても、レフェリーは反則を取れない説。

・デスペラードのマフラーホールドで、手を浮かす攻撃は今までは勝負が決まっていたが、ヒロムはカナディアン・デストロイヤーで返した。

・ヒロム、ナックルパートから、デスペラードのマスクを半分程剥がす。

・すると、デスペラードは、自分からマスクを脱ぎ捨てて素顔に。

・特に、特徴のある顔ではない。

・終盤、ヒロムのTIME BOMBをデスペラードが返す。

・最後は、ヒロムが、TIME BOMB IIで勝利して、優勝 覇者。2年ぶり2回目。

ワールド・タッグ・リーグ2020 優勝決定戦

リーグ戦2位

リーグ戦1位

○タマ・トンガ 22分15秒 スーパーパワーボム ●ジュース・ロビンソン
タンガ・ロア ～エビ固め 初優勝 デビット・フィンレー

やはり、ヘビー級は迫力がある。特に外国人同士だから。

邪道が乱入して、竹刀で攻撃しようとするが、ロビンソンが竹刀を受け止める。

エントランスから KENTA がやってきて、USヘビーのかばんでロビンソンの頭に一撃。

合体のパワーボムで、タマ・トンガがロビンソンをフォールして、勝利、優勝。

やはり、優勝決定戦での乱入は反対だな。価値が落ちるが、新日本はこの路線で行きたいのだろう。

大型4強外国人が、昔の全日本プロレスのスタン・ハンセン達のように乱入なしの大味な試合で決着することを望んだが、乱入が入っちゃった。新日本は、ここは守りたいが。(終)

4. WWE (ワールド・レスリング・エンターテインメント)。

2020年7月8日（水）

柴雷イオ、についてのオールスターコラム！ いつか見たい、ムタ - イオ戦！

まずは柴雷イオに、WWE の、「NXT 女子王座獲得おめでとう！」と改めて伝えたい。WWE では初のベルトだ。そして防衛もした。

最近、新型コロナウイルスの影響で、女子プロレス団体、スターダムの、TOKYO-MX の番組『We are STARDOM！！』（放送終了／だがユーチューブで発見）では、昔のスターダムの試合が流れている。その中でも、イオはしょっちゅう登場している。だから、私は現在形の WWE “NXT” のイオも見られるし、スターダム時代のイオも見られて二重で楽しめている。

これはイオとしても女性としても、私が慎重に書かなければいけないことだが、私は、WWE でも、過去のスターダムでも、まず確認するのは「イオの顔は綺麗（美しい）か？」という見方を必ずして、お世辞でもなく「やっぱり綺麗だ！」という解釈をする。私が思うに、スターダムの時代と、WWE の現在のイオは、お化粧品に変化があると思う。私は、WWE の ASUKA やカイリ・セインにしても、イオにしても、WWE でお化粧品をすることによって、日本やスターダムの時代より、美しさが落ちる（ヒール（悪玉）だから、しょうがない面もあるが）、というイメージを持ってしまう。でもイオを含むこの3人共綺麗であることは間違いない。

そして、イオの最近の WWE ではあまり感じないが、スターダム時代の映像では、私のイオへの好きな表現で「ワキを全開にして出しっぱなしにする」というセクシーさがたまらない。特にスターダム時代のヒョウ柄で、まるで上下の下着だけと言えば極端だが、そのくらいの際どいコスチュームで戦っているのがいい。改めて書くが、ワキフェチの私にとって、イオの「ワキを全開にして出しっぱなしにする」のはたまらない。生理的な話で失礼だが（笑）。

あと、私からすると今更なのだが、イオは存在感があるから身長が高いように見えて、156cm と実は小柄だ。私は、その頃のスターダムのユニットに詳しくないが、イオと岩谷麻優でサンダーロックというユニットを組んでいた。その2人がカメラに向かって話している映像があるが、2人が並ぶと岩谷は162cm だが、リーダー（？）格のイオよりも、麻優のほうが身長は高く、頭一つ大きいことに少し驚いてしまう。さすがに慣れているが、イオ様という風格・オーラが身長を高くイメージさせるが、小柄なのだ。そこがまたイオはかわいいし、イケてるところだ。レイ・ミステリオが好きらしいし、それは関係ないか（笑）。

あとイオは、WWE の試合では、最近ではコロナの無観客や、カットのハイライト放送で、どういうアピールをしているのかはわからない。だが、スターダム時代の例えば、場外にムーンサルト・アタックに行く前の、ファンを乗せる為に手を広げて煽るとか、相手を持ち上げて必殺技に行く前に首を掻っ切るポーズを入れるとか、凄くファン思いなのだと思う。試合に余裕があり、視野も広いのだろう。カリスマ性は抜群だ！

WWE では今までの日本での経験を活かして、男子スーパースターズとも戦って倒してもらいたい。いつか、グレート・ムタ対イオなんて試合も実現したら本当に面白いだろう！（終）

2020年7月30日（木）

カイリ・セイン、WWE所属のまま帰国。日本からWWEのプロモーションをサポート。

WWEで活躍した、カイリ・セインが、WWE退団をする噂がネット上で流れていたが、ユーチューブなどの映像で涙を流して、ASUKAなどと抱き合うシーンなどもあり退団は決定的だ。カイリは日本では、女子プロレス団体、スターダム3期生として、宝城カイリのリングネームで活躍していた。スターダムでは、ほとんどのタイトルを獲得した。（カイリはその後、日本でWWEと選手契約を結んだ）。

私が、カイリを知ったのは、WWEの第1回、WWE・メイ・ヤング・クラシックのトーナメントでトニー・ストームや、シェイナ・ベイズラーといった強豪を破り優勝してからだ。私はかわいいと思い一発で好きになった。パイレーツ・カリビアン（海賊姫）のギミックも良かった。正直、私は、カブキ・ウォリアーズ（ASUKA&カイリ・セイン）は、好きではないわけではないが、あの「The Next Voyage」の入場テーマも壮大で、“NXT”の頃も良かった。“NXT”では、シェイナという強い女子スーパースターがいたから、意外とNXT女子王者になるまでは時間がかかった。しかし、1回だけNXT女子王者になっている。雑誌などでもカイリは、「メイ・ヤング・クラシックのトーナメントで優勝してしまったので、逆に“NXT”に行ってから大変だった」と語っていた。その後は徐々に“NXT”からでも、WWE特番の女子ロイヤルランブルに出場するなど、頭角を現した。面白かったのは、カイリはアレクサ・ブリスと身長が155cmで一緒なのだが、カイリはアレクサに手をかざして、私のほうが大きいとアピールするとか、“スマックダウン”に昇格しても、アレクサの耳の飾りを指して、「なにコレ〜？」と、冷やかす場面もあった。“NXT”では昇格前のタイミングで、紫雷イオが“NXT”に入団した。そして、スカイ・パイレーツ（天空の海賊姫）として、タッグを組む期間もあった。その後は、カイリのメインロースター、“スマックダウン”昇格で、解散した。だが、WWE特番“サバイバー・シリーズ”で、5対5で戦っていた時に、交わらなかったが、カイリとイオが向かい合う同窓会状態になったこともあった。

“スマックダウン”で、ASUKAと組みカブキ・ウォリアーズを結成するが、ここからはタッグ中心になった。その後“ロウ”にも移籍して、WWE女子タッグチーム王座を獲得した。

私は、WWEの日本公演（両国国技館）で、カブキ・ウォリアーズの試合を見たが、カイリの試合を生観戦することができて、とても興奮した。今後は、一応は見られない可能性もあるから、必殺技、インセイン・エルボーも見られたし、生観戦しておいて良かった。

WWEでの最後の試合はノンタイトル戦ながら、スマックダウン王者のベイリーを丸め込みで勝利。でも、前回は、バックステージでベイリーにやられてしまった。ASUKAが試合放棄して救出に来た、ASUKAも優しい。今年2月くらいにカイリは結婚されたようで、私も少しだけ覚悟していたが、ついにこの時が来た。カイリがいないWWEは寂しいけど、本当に私を楽しませてくれてありがとう。いつかまた無理なく、サプライズ登場して欲しいな。（終）

2020年8月22日（土）

ドリュー・マッキンタイアは、WWE 王者としての風格がある！

WWE 所属の、ドリュー・マッキンタイアは、現在、WWE 王者に君臨している。今年1月の特番“ロイヤルランブル”のロイヤルランブル戦で優勝して、特番“レッスルマニア 36”のメインイベントの切符を掴むと、“レッスルマニア 36”では、当時の WWE 王者ブロック・レスナーをクレイモア（キック）で破り、新王者に輝いた。その後は、レスナー戦後突然挑戦したビッグ・ショーを返り討ちにして防衛。更に、特番“マネー・イン・ザ・バンク”では、セス・ロリンズから防衛。特番“バックラッシュ”では、ボビー・ラシュリーから防衛。特番“エクストリーム・ルールズ、ホラー・ショー”では、ドルフ・ジグラーから防衛した。次の対戦相手には、WWE の4大会の1つ“サマースラム”での、ランディ・オートン戦が決まっており、ここで、マッキンタイアがオートンに勝てるかどうか本当の意味でのチャンピオンの証明になると見られる。

マッキンタイアの本名は、アンドリュー・マクレーン・ギャロウェイ 4 世という。私からすれば長くてかっこいい名前だ。4 世というのも味がある。出身はスコットランドである。身長 190cm、体重 120kg のスーパーヘビー級といっても良い。年齢も苦労人の割にはまだ 35 歳とこれから十分に活躍が期待できる。

私は、今年の1月のロイヤルランブル戦で、マッキンタイアが優勝した時は、これは、“レッスルマニア 36”で王者になるだろうけど、風格がないな、作られたチャンピオンだな。というような感じで見えていたが、「王者が王者を創る」ではないが、防衛を重ねていくうちに、どんどんと王者の風格が出てきた。だが、マッキンタイアがジグラーとマイクで言い合うシーンなどでは、ジグラーから「お前は昔、WWE を解雇された、そして俺達を見捨てて、今王者になっている」などという低レベルのマイクのやり取りをしていて、それは吹っ掛けたジグラーが悪いのだが、くだらないと私は感じた。もっと王者らしい言い合いを期待した。

しかし、ジグラーとの抗争が終わったあと、あのオートンでさえも、マッキンタイアに対して「お前は WWE をクビになったことがあるだろう。俺にはそんなことは1回もなかった」と言われていた。だから、マッキンタイアのネタは、「WWE から解雇された、クビになった」というネタしかないのかもしれない。

次回、特番“サマースラム”では、WWE 選手権、(王者) ドリュー・マッキンタイア（挑戦者）ランディ・オートンが決定している。私は、レスラーとしての器量を見たら、オートンのほうがダントツに巧いと思うが、やはり、ベビーフェース(善玉)という意味では、マッキンタイアに、ヒール(悪玉)のオートンを破って欲しい。でも、最多王座戴冠回数 16 回のリック・フレアーに突然、急所パンチとパント(キック)を放ったオートンは、現在、王座戴冠回数 13 回だから、記録に迫る為にマッキンタイアに勝つ可能性はある。

マッキンタイアはオートンに勝てば、レスナーを含め大物 2 人を破る。どうなる？ (終)

2020年9月8日（火）

レトリビューションは、何をやりたいのか？

WWE で、暴れ回る謎の軍団、レトリビューション。顔に黒い覆面をして、身体も黒くまとっているのも、誰かも、どのくらい体躯があるのかも、よくわからない。

先日、テレビで『This week in the WWE』を見ていたら、オープニングの映像が早回ししたり、巻き戻されたり、一部が壊されていたり、めちゃくちゃな映像になっていた。これもレトリビューションの仕業だろう。

テレビクルーに限らず、いろいろな人物を襲撃するのは nWo のアウトサイダーズ（ケビン・ナッシュ&スコット・ホール）が、WCW のテレビクルーにいたずらして脅した時よりも、全然迫力は違う。だが、アウトサイダーズはガチですぐ退散したが、レトリビューションは WWE の作り物であるという違いはあるだろう。

戸澤陽は最近、忍者の格好をして、同じような忍者の大勢の弟子を連れているが、明らかにこの戸澤の忍者軍団は、レトリビューションではないと予想される。タイミング的にはまぎらわしいが、意外とそこまで含めて考えると面白い。

ここ最近、WWE では、アイコニックス（ビリー・ケイ&ペイトン・ロイス）のマイクが突然喋れなくなるとか、試合中に照明が点滅して暗くなる、などのおかしな事件が起きていた。

ここはジョークで聞いて欲しいが、私も最近生活していると、突然のタイミングで大雨が降るとか、ゴキブリが現れるとか（これは“フィード”ブレイ・ワイアットよりか？（笑））、こういう事態が起きると私は、「レトリビューションが現れた」と喋ることがある。つまり、おかしな出来事が起こったら、レトリビューションが発生しているということだ。これは個人的に喋ると結構楽しい。

話は戻り、元々、最近のレトリビューションの前に、例えば、オーティス、マンディ・ローズ、ドルフ・ジグラー、ソーニャ・デヴィルなどの恋愛物語辺りの時から、WWE の司令官みたいなロボットの映像が、WWE のさまざまな事件を、まるで防犯カメラのように隠し撮りして、公表して事件を解決させたり、複雑にさせたりしている時期があった。その WWE の司令官ロボットと、今回のレトリビューションは、私は関係しているように見える。もし、関係ないなら、WWE の脚本家が替えられたということだろう。

このレトリビューションの事態に対して、上層部、ビンス・マクマホン、シェーン・マクマホン、ステファニー・マクマホン、トリプルHなどからの意見がない。スーパースターズ同士で、バックステージで話してしまうだけだ。ストーリー上、ビンスがレトリビューションを仕掛けた黒幕というわけでもないだろう。上層部がもっと本腰を入れて、レトリビューションに対する考えなどをマイクで話して欲しい。レトリビューションの目的は？（終）

2020年9月21日（月）

「ロウ・アンダーグラウンド」は、かなりストレスが発散できる！

WWEの“ロウ”で以前から始まっている、シェーン・マクマホンが始めた企画「ロウ・アンダーグラウンド」。これは会場の地下室で行われていて、いわゆる「なんでもあり」。プロレスも、MMAも、喧嘩も……全て混ぜたような企画でルールなんてほとんどない。ロープもなく、黒いマットが敷いてある四角いリングで、その周りを力自慢達が囲っている。

私は、WWEを見た後に、MMAを見れば、ほぼ同じことだろうと思ったが、MMAはポジションの取り合いなど、時間がかかる競技で退屈だった。かつてのMMAの“ラウディ”ロンダ・ラウジー（元、WWE）の試合を見てもロンダ自体は好きだし、ワクワク感があるけど、ポジションの取り合いなどで見ていると、やはりMMAはそこまで面白くない。

「ロウ・アンダーグラウンド」のルールのような物は、とにかくリングに基本2人が上がり戦わせる。ヘッドロックやスリーパーホールド、スープレックス、場外戦……何をしてもいいが、片方が戦闘不能になったら、勝った者はリングに残り、場外から挑戦者が上がって次々と戦うという仕組みだ。つまり、全員を倒すか、その日の“ロウ”の放送が終わるまでは戦い続けるということになっている。

確かにWWEのシェーンも、無名の選手がずっと戦い続けたら、視聴者がわからないだろうということで、WWEのスーパースターズ（プロレスラー）を「ロウ・アンダーグラウンド」に毎回上げている。そこで障りだけでもやや本気で戦わせて互角に渡りあうとか、無名選手が意外に強くて「ロウ・アンダーグラウンド」で株を上げ、発掘されるファイターも現れたりする。

何が「ロウ・アンダーグラウンド」でいいか？　というと、“ロウ”の退屈なストーリーとレスリングの攻防が終わり、番組の何度かの間で、この“喧嘩の見世物”を見られることが、ストレス発散になるのだ。もしかしたら、この「ロウ・アンダーグラウンド」というものは、プロレスやMMA……などの格闘技のように、この試合や、大会の、勝者は誰！　というものを持っていない見世物かもしれない。普通の競技のようになるものではなくて、あくまで、ストレス発散や力自慢の迫力を楽しむのが目的だけで、今は仮に“ロウ”に存在しているだけかもしれない。だから、「ロウ・アンダーグラウンド」から、今後、新しい何かが創られていくという期待で見ると失敗すると思う。現に、完成しているのかも。

だから、プロレスの試合が退屈なのであれば、そしてMMAを見るのもつまらないのであれば、この「ロウ・アンダーグラウンド」に空気を吸いに行って、喧嘩の破壊や、スピード感を楽しむという意味では、シェーンは素晴らしい物を創ったと言える。

私の場合、プロレスは退屈でも見られるほうだが、MMA……などの格闘技を見るのは、飽きて苦手だ。そのプロレスとMMAの間みみたいな喧嘩のショーは、私を愉快にする！（終）

2020年10月5日（月）

NXT 女子王者、柴雷イオの包囲網。リア・リプリー、トニー・ストーム、エンバー・ムーン！

日本時間、10月5日（アメリカ時間、10月4日）に、WWE 特番、“NXT テイク・オーバー 31”がおこなわれた。

注目は、セミファイナルの、NXT 女子選手権、(王者) ○柴雷イオ - (挑戦者) ●キャンディス・レラエの試合。私は特に“WWE ネットワーク”にも加入していないので、見られたのはほんのわずかのシーン。結果や、その後の登場人物は、あとからインターネットで調べて知った。

試合内容としては、まず、レラエがフォールするがレフェリーが不在。そこへ、レラエのパートナー（夫）の、ジョニー・ガルガノがエントランス（入場ゲート）から、レフェリーの服を着て登場。急いでリングに上がり、高速カウントを叩くが2カウントでイオが返す。すると、ガルガノは場外に行き、NXT 女子王座ベルトを持ってリングに上がるが、元のレフェリーも立ち上がる。元のレフェリーは、ガルガノに「退場！」というが、ガルガノも「(元のレフェリーに) 退場！」と言いつつ、ベルトをキャンディスに渡す。そして、ガルガノが、（わかりました。とばかりに）レフェリーの服を脱ぐと、キャンディスがイオにベルトで一撃。そしてカバーに行くと、元のレフェリーは気づきカウントを数えたので、私は「遂にイオ、ベルトを奪われたか!？」と思ったら、イオはこれを2カウントで返した。ここまでは、映像で見られた範囲だ。その後、イオはスパニッシュフライを決めると、イオの世界一美しい、ムーンサルト・プレスで3カウント勝利。イオが見事、キャンディスから防衛に成功した。

この試合の前か後に、リア・リプリーがトリプルHに対して、「(何かの条件で) 勝った選手を NXT 女子王座に挑戦させて欲しい」と名乗り出たようだ。

イオは試合後、リングにいと、トニー・ストームが「“NXT”に戻る」と宣言したらしい。私が、インターネットで調べた写真では、「トニーの赤い口紅が強烈で塗り過ぎではないか?（笑）」と感じたが、やっぱりトニーはカッコいい。私は、カイリ・セインが一番好きだったけど、WWE を離脱して、私の中で殿堂入りしたとすると、1番はイオ、2番はトニーというくらい、トニーはカッコ良くて好きである。イオとトニーは、女子プロレス団体、スターダム時代からライバルで、NXT でも“メイ・ヤング・クラシック (MYC) 2018”の決勝を争った2人。男子で言えば、中邑真輔と AJ スタイルズみたいな関係かもしれない。

更に、イオがリングにいと、ビジョンで、バイクに乗った人物が走り出して、道を走り会場入りした。そして、エントランスに現れて、ヘルメットを脱ぐと、なんと1年ぶりに復帰のエンバー・ムーンだった。以前は、“NXT”ではなくメインロスター（1軍）で活躍していた。私は、「ハクション、大魔王!」に似ているという、読売巨人軍のゼラス・ウィーラーの顔に似ていると思った（笑）。 NXT 女子王者、イオへの包囲網は強力になった。（終）

2020年10月6日（火）

プロレスラー、マーフィーについて。（マーフィーの法則！）。

マーフィーとは、現 WWE でのリングネームである。以前は、バディ・マーフィー、それ以前はマット・シルバのリングネームで戦っていた。本名はマシュー・マーフィー、アダムスである。年齢は32歳。身長は180cm、体重は90kg。2013年からWWEの“NXT”で活動して、2015年にウェスリー・ブレイクと組んで、NXT タッグ王座を獲得した。2018年から、クルーザー級部門の“205・ライブ”に所属。セドリック・アレクサンダーを破り、WWE クルーザー級王座を獲得した。

その後、WWE のメインロースター（1軍）に登場すると、いきなり大役を任される。「ローマン・レインズ襲撃事件」のカギを握る人物だ。レインズといえば、WWE でもトップに君臨するスーパースターだ。レインズが車に轢かれそうになった時、マーフィーは現場で目撃していたということで、レインズに詰問にあった。そこで、「知っててもお前に言うかよ」と言って不敵に口角を上げ笑う仕草などはヒールには適任であった。そして、犯人扱いしたエリック・ローワンにも投げ飛ばされたりしたが、この事件の目撃者だけで、犯人ではなかった。

そして、次の抗争相手は、まさに肌が合いそうな“NXT”からメインロースターに昇格した、アリスター・ブラックだった。必殺技ブラック・マスを武器にNXT王者にも1度輝いている次代の大家のスーパースターだ。WWE ではマーフィー — ブラックの試合を立て続けに組んだが、いつもブラックが勝つ。ブラックにまた負けたある試合後、マーフィーはリング下で呆然となり座っていた。すると、メインイベントに登場したセス・ロリンズがマーフィーを自分の子分として引き入れた。

ロリンズがヒールとして、レイ・ミステリオと戦い、なんとロリンズはレイ・ミステリオの目を鉄階段の角に突き刺した。レイ・ミステリオは目を負傷して戦線離脱となった。その後、ロリンズの凶暴さは増して、ブラック、ウンベルト・カリージョ、ドミニク・ミステリオの目を鉄階段の角に押しつけようとする展開が続いた。そして、ロリンズは、マーフィーに「ブラックをやれ！ 何度も負けただろう！」と言うと、マーフィーはブラックの目を鉄階段の角に突き刺した。ロリンズのほうは、レイ・ミステリオの目を改めて鉄階段の角に突き刺したが、思わず自分でゲロを吐く始末だった。その後、ブラックは片目を帯で結びながら復活して、レイ・ミステリオも大事には至らず、復帰した。

マーフィーはドミニク・ミステリオに敗れて、ミステリオファミリーの、父、母、子供2人の4人に竹刀で叩かれ降参して負けた。ロリンズとドミニク・ミステリオのケージマッチの前には、ロリンズはマーフィーに「お前はリングに近寄るな！」と言われたが、やって来てしまい、金網のドア攻撃をロリンズに誤爆。ロリンズはマーフィーをボコボコにした。

だが、私は流利的に、ロリンズ — マーフィーはあると思う。マーフィー頑張れ！（終）

2020年10月14日（水）

将来の WWE 殿堂ユニット候補、“エボリューション”は格好良すぎる！

私は、WWE で、エボリューション（リック・フレアー&トリプルH&バティスタ&ランディ・オートン）はもう WWE 殿堂入りしたユニットだと思ったが、まだ、殿堂入りしていなかった。リック・フレアー自身とフレアーのいたユニット、フォー・ホースメンで、フレアーは2回殿堂入りしている。トリプルHとランディ・オートンはまだ現役のせいか、自身の殿堂入りはない。だが、トリプルHは、ユニット、D-ジェネレーションX（DX）で、ビンス・マクマホン会長のプライドを感じるが、nWo よりも先に DX を殿堂入りさせている。そして、今年の2020年はダイヴ・バティスタが自身で選ばれていて、nWo も選ばれていた。しかし、コロナウイルスが発生したので、2020年の殿堂入り式典はおこなわれていない。順調に行けば、バティスタは正式にファンの前で選ばれるかもしれないし、いつの日か、トリプルHとオートンも自身で選ばれて、4人とも自身で選ばれることになるだろう。そして、エボリューションでも貰えば、フレアーと、トリプルHは3度目の受賞になる。少し気になるとしたら、フレアーの年齢くらいのことだが、すでに殿堂以上の活躍をしている。

エボリューションで、トリプルHは絶対王者的な強さがあった。そこに参謀のフレアーがいて、このフレアーの特に NWA 世界王者としての伝説は凄い。そして、オートンは最年少 WWE 王者になるなど、最近でも WWE 王者戦線で戦い、レジェンドキラー、必殺技 RKO やパントキックで相手を病院送りにしている。やはりヒールが似合う。バティスタはイタリア系の顔をしたカッコいい男だが、自分で言うようにシャイな面があるようだ。さすがに慣れただろうが（笑）。意外にバティスタのほうがトリプルHよりも1学年上だ。映画に出演したりしているが、最近は WWE マットからは離れている。

とにかく、この4人はカッコ良くて、強すぎる為、私は大好きだった。バティスタはそんなに最高位王者になってはいないだろうが（それでも6回）、フレアー、トリプルH、オートンは、10回以上、WWE の最高位王座を獲得している。

オートンは個人の方が強くなったので、ユニット、レガシーを結成した。3人組のユニットで、今、AEW で花開いた感のある、Cody（当時は、コーディ・ローデス）そして、テッド・デビアス（Jr）である。この3人は2世、3世のレスラーで結成されたユニットだ。プロレスに（if）はないが、デビアスはともかく、オートンと Cody が今組んでいたらかなり強力だと思える。しかし、Cody はオートンの影に隠れたまま終わったかもしれない。

話は戻り、また、エボリューションが復活するならば、不協和音で、内部で戦う形でもいいが、それはやった。だから、エボリューション — 何かのユニットで、エボリューションが同じチームで再結成して欲しい。何かの記念日に1回やるくらいが限度だろうが。（終）

2020年10月30日（金）

柴雷イオ（NXT 女子王者）、キャンディス・レラエには、また負けなかった！

WWE の“NXT ハロウィーンハボック”で、NXT 女子王者の柴雷イオが、キャンディス・レラエとのラダーマッチを制して、またイオはキャンディスを返り討ちにした。

以前の“NXT 特番テイク・オーバー”でもイオとキャンディスは NXT 王座を懸けて戦ったが、イオは「私はもう何回もキャンディスに勝っているの。何度やっても同じ」と言っていて、案の定、勝利していた。

この日の試合では、イオとキャンディスがラダーを並べて争っていると、骨骨ロックの仮面をした人物が登場した。これは、レラエの夫の、同じスーパースターのジョニー・ガルガノだった。この日の第1試合でガルガノは骨骨ロックの仮面の人物の助けを借りて、NXT 北米（NXT ノースアメリカン）王者に輝いていた。それを考えると第1試合の骨骨ロックの仮面の正体はキャンディスだった可能性もある。（正式には、オースティン・セオリーだった）。

キャンディスはガルガノのアシストで、あとはラダーを上り、ベルトを奪えばいい状態になったが、ここで、ショッツィ・ブラックハートがキャンディスを妨害して、その隙にイオがベルトを獲得して NXT 女子王座の防衛に成功した。

この試合は、事実上、WWE から出したのは、ヒール（悪玉） — ヒールの対決で、キャンディスは既に結婚して美人だが、明らかに最近ヒールの言動が多い。イオも美人だが、キャンディスがヒールだからベビーフェイス（善玉）なのかな？ と思うといつもとと同じで「柴雷イオ」とビジョンに文字が出て、雷のような音が鳴る入場テーマ曲だった。でも、日本人の選手はヒールといっても、相手側がヒールの場合応援されるパターンが多いから、どちらかといつこの試合も、イオはベビーフェイスといつて良かった。

イオは、156cm と小柄で、30 歳の NXT 女子王者。キャンディスは、158cm で意外と若そうなのに 35 歳で、NXT 女子王者には輝いたことはない。イオは猫を愛しており、イオの小柄な身体と運動神経も、まるで猫のようである。ちなみに、以前、WWE を日本からサポートする選手として契約したカイリ・セインは、犬好きのようだ。その辺の WWE でイオとカイリが共同生活を送った時に、猫と犬をどういう風に飼ったのか？ とか、イオとカイリが、猫と犬についてどんな話をしたのか？ については興味がそそられる。

戻り、この日の第3試合でリア・リプリーが勝ち、強さを見せ、“NXT 特番テイク・オーバー”では、トニー・ストームや、エンバー・ムーンといった辺りが、イオに包囲網を敷いていた。無論、キャンディスの存在もまだ、どうなるかわからない。

私の予想では、イオが万が一、NXT 女子王座のベルトを奪われたくらいが、メインロースター（1 軍）に上がる機会になるかもしれないと思う。NXT に居続けてもいいのだが。（終）

2020年11月6日（金）

中邑真輔は、今のポジションでも、文句一つ言わず、自分の役割をこなす。

WWEで、新日本プロレスでトップだった中邑真輔は、まずは、“NXT”で活躍し、NXT王者に2度輝き、メインロスター（1軍）に昇格すると、ロイヤルランブル戦を優勝して、“レッスルマニア34”で、AJスタイルズの持つ、WWE王座に挑戦するが敗れて、ヒール（悪玉）ターンした。これが、いつも中邑を振り返る時のWWEの歴史になっている。

でも、これだけの評価があったから、「俺も期待されたんだ」という、今の中邑の心の支えになっていると思うし、こういう華々しい売り出され方をされなかったら、逆にクビにされるか、自ら退団を申し出た可能性もある。

確かに、中邑は、WWE・インターコンチネンタル王座（IC王座）や、WWE・ユナイテッドステイツ王座（US王座）を2回、WWE・スマックダウン・タッグチーム王座（パートナーはセザーロ）にも輝いている。その相棒のセザーロは中邑よりもずっと前からWWEにいたが、最高位王座を獲得していない。これは、逆に中邑からすれば、心強い励みになるのかもしれない。

今回のWWEのドラフトで、中邑は“スマックダウン”所属のままだった。例えば、“ロウ”へ移籍していれば、WWE・ロウ・タッグチーム王座を取れた可能性がある。ついでに言えば、WWE王座を狙えたかもしれない。しかし、中邑は“スマックダウン”だから、次の高みを目指すなら、WWEユニバーサル王座という、WWE最高位王座を獲得するチャンスとも受け止められる。

話は少し変わるが、中邑選手は“旅人”というイメージがあるから、今の状態で新日本プロレスに戻ることはないと思う。あるなら、AEWなら、一発で最高位王者になれると私は断言してもいいと思うが、その道にはまだ行かないと思う。中邑は、WWEに骨を埋める覚悟もあるかもしれないが、WWEで最高位王座などの結果を獲得するまでは、WWEから移籍することはないと思う。やはり、今、AEWとか、新日本とは言っても、一番大きな団体はWWEであろう。

中邑がWWEに入って、前述したように、活躍していた頃は凄く動きがあった。しかし、最近は、毎週のようにセザーロと組んで、勝ったり負けたりして、あまりインパクトのある役が回ってこない。しかし、中邑からしたら「最高位王座の為だけに、WWEに来たわけじゃないぜ！」と言われそうだし、「今も、勝負所だと思って頑張りたい！」と思っているのかもしれない。中邑のコメントが入ってこないからわからないが、中邑は今のポジションに納得しているのか？ 不服なのか？ を聞いてみたいし、最高位王座をやはり獲りたいのか？ も聞きたい。WWEにこれだけいると、ほぼレジェンドと呼ばれるのは間違いない。今のポジションでも、文句一つ言わず役割をこなす中邑はさすがだ。（終）

2020年11月11日（水）

カイリ・セインの犬の話と、柴雷イオの猫の話。 “レスルマニア”でシングルを見たい！

カイリ・セインと柴雷イオが向き合って、お互いに噛みつかんばかりに「ギャー！」と口を開けて、大声を上げているような写真があった。まさにベストショットで、犬 — 猫の対決だ（笑）。

カイリも、イオも、WWE 所属である。カイリは、イオの情報によると犬を飼っているというし、インターネットでも、カイリと犬と一緒に映っている写真が上がっていた。

イオは、猫が好きで、自叙伝などでも、「私は猫がいないと駄目です」というようなことを語っていた。

私は、今 38 歳だが、10 代～20 代頃まで、実家で柴犬のオスとメスを飼っていた。オス犬はリッツという名前。メス犬はさくら（通称、アーコとか、アーちゃん）と呼ばれていた。ある時期、2 匹にめでたく 12 匹の犬の子供が産まれたが、一匹は力なく死んでしまった。でも、残り 11 匹は他の家の人達に貰っていただいた。リッツもアーコも高齢になってからは、2 匹ともリッツ、アーコの順番で死んでしまったが、私は飼うのに反対したけど、あの 2 匹を飼ったことは本当に良かった。でも、もう動物は飼いたくない。

最近、アパートの近くに、ノラ猫が何匹も住みついている。なんとなくだが、隣の家に住んでいる人がエサをあげてしまっているようだ。先日は、猫なのにドックフードみたいな臭いがした。でも、猫は凄い「ビクッ！」と反応してビビリ屋だから、すぐ逃げてしまうけど、なんとなく犬も噛むけど、猫は引掻きそうで怖いイメージがある。でも、かわいい。

昔、公園に 1 人で切り株のイスに座って、尾崎豊さんの歌を歌っていたら、ぞくぞくと猫が現れて 12 匹くらい集まった、私は、少し怖くなったというか、気持ち悪くなってしまったが、猿とは違って、猫は向こうから襲ってくることはないな、と感じた。

カイリは今、一時期は WWE を離脱したという報道が流れたが、どうやら、日本に住みながら WWE との選手契約を結んでいるようだ。異例の契約らしい。カイリは「アンバサダー（大使）的な役割になりたい」とか、「もしかしたら、WWE の特番“ロイヤルランブル”のロイヤルランブル戦や、“レスルマニア”に、突然、登場する可能性もあるわけです」というようなことを語っている。それは物凄い楽しみだ。

イオは、現時点で NXT 女子王者。今後さらにメインロースター（1 軍）などに登場していくことも期待される。メインロースターには ASUKA がいるが、WWE 所属ながら、コロナ禍でなかなか WWE に行けない Sareee が、“NXT”に来るのかも関係するだろう。

カイリとイオは、WWE で戦いかけたタッグ戦はあるが、シングルマッチはない。組んだことはある。今度は、スターダムのおちゃん（宝城カイリ）以来の対決で、イオさんと対戦して欲しい。そして、WWE の“レスルマニア”でカイリ — イオを見たい！（終）

2020年11月14日（土）

WWEに、NFL勢、ロブ・ Gronコウスキーや、パット・マカフィーの参戦について！

NFLとは、(ナショナル・フットボール・リーグ)つまり、アメリカのアメリカンフットボールのプロリーグのことだが、私は、昔は子供ながらに、ジョー・モンタナというクォーターバックの名前だけは知っていたので、サンフランシスコ49のわかファンだった。毎年、お笑いのオードリーの司会で日本時間、木曜日深夜に放送されている『NFL倶楽部』という番組は、HDD（ハードディスク）に録画して見続けている。

WWEは、アメリカのプロレスの団体である。最近、NFLの選手が、といっても2選手だが、WWEに登場している。ちなみに、昔は結構、NFL出身のプロレスラーは多かったようだ。

まず、挙げたいのは、ロブ・ Gronコウスキー（31歳）。この Gronコウスキーを挙げる前に、NFLの生きる伝説を挙げておかななくてはならない。トム・ブレイディ（43歳）だ。ブレイディは、2000年～2019年まで、ニューイングランド ペイトリオッツのクォーターバックとしてプレーした。そして、2020年からは、タンパベイ バッカニアーズでプレーしている。 Gronコウスキーは、2010年～2018年までペイトリオッツでプレーして引退したが、2020年から バッカニアーズで復帰してプレーしている。だから、2人はペイトリオッツでも8年近く一緒にプレーして、2020年から、 バッカニアーズで改めて一緒にプレーしている。今もこのコンビネーションでの得点パターンは多い。

その Gronコウスキーは、WWEのモジョ・ローリーと親交が深いようだ。2017年“レッスルマニア33”では、ローリーの試合に乱入して、勝利をアシストした。2020年“レッスルマニア36”では、ホスト役を務めて、どさくさに紛れて、24/7王座を獲得した。その後は前述したようにNFLへ復帰を果たした。

もう1人、パット・マカフィー（33歳）も、NFLの選手で、インディアナポリス コルツに所属していた。ある日“NXT”でマカフィーが突然、解説席に座っていると、ユニット、アンディスピーエテッド・エラのアダム・コールと罵りあい不穏なムードになった。しかし、コールが近づくと、マカフィーは一撃で失神させた。その時はトリプルHやショーン・マイケルズも駆けつけたほどだ。その後も、マカフィーは、“NXT”の試合に出場してコールを含む大勢の場外の選手に向けて、リング上からダイブした。最近では、マカフィー、ピート・ダン、ダニー・バーチ、オニー・ローキャンの4人で組んで、“NXT”で暴れている。

(感想) Gronコウスキーも、マカフィーも、30代前半ということで、マカフィーは現在WWEで活動しているが、 Gronコウスキーもいつの日か、WWEに来て活躍して欲しいという気もする。しかし、ブレイディとのホットラインを考えると、まだ、若いから、ブレイディが引退するまでは、NFLで活躍するのも見ていたい。プロレスはやはり、アマチュアレスリング出身が多いから、NFLとかラグビー出身のような、破壊力がある選手は魅力的だ！（終）

2020年11月18日（水）

ランディ・オートンは、あと2回最高位王座戴冠で、フレアーとシーナの持つ16回に並ぶ！

WWEで、ランディ・オートンは、前回特番“ヘル・イン・ア・セル”で、通算14度目の最高位王座戴冠を果たした。しかし、この日の“ロウ”で、最近抗争を続けている、ドリュー・マッキンタイアにクレイモアキックを食らいWWE王座から転落した。マッキンタイアは、勢いに乗り、これで最高位王座（全て、WWE王座）は2回目の獲得となった。

オートンは、これで最高位王座獲得回数が、14回目でストップしている状態となった。上にいるのは、リック・フレアーとジョン・シーナの16回。フレアーはWWE以外の、NWAや、WCWなどの、最高位王座を含んだ記録で16回である。シーナは丸々、WWE管轄の最高位王座ベルトだけで掴んだ16回である。オートンもシーナと同じく、丸々、WWE管轄の最高位王座ベルトだけで掴んだ14回である。ちなみにトリプルHも14回、ザ・エッジは11回獲得している。

先日、私はなんとなくテレビをつけていたら、シーナがアクション映画で登場していた。はっきりとは見なかったが、テロリストと闘う、正義の味方のような役柄だったと思う。それにしても、シーナはなぜ、フレアーと同じ16回の戴冠回数にして、WWEで戦うことから離れた活動をしているのか？ シーナの若さなら、まだ全然記録を伸ばせそうだった。しかし、これが15回だったらフラストレーションも溜まるが、フレアーと同じ16回で止めてあるのが、なんとなく納得がいく。

トリプルHも14回ということだが、既に裏方に回っているので、16回の記録を抜くことは無さそうに思える。ザ・エッジも一時の勢いでは記録を抜くかもしれないと思われたが、11回で止まった。

フレアーは71歳だが、いくらなんでも戴冠記録を伸ばすようなことはないだろう。だから、極端な見方をすればフレアーが元気なうちは、誰にも記録は破らせないというWWEの暗黙のルールがあるのかもしれない。

シーナもプロレスから離れた今、最高戴冠回数の16回に追いつき、追い抜きそうな存在は、やはりオートンということになりそうだ。それにしても、今回はアツという間に“ロウ”でマッキンタイアに敗れた。その分、記録には近づいた。どちらがいいとも言えない。（終）

2020年11月19日（木）

ザ・ロック様（俳優名：ドゥエイン・ジョンソン）について。

ザ・ロック（俳優名：ドゥエイン・ジョンソン）（48歳）は、ウィキペディアで確認したところ、2019年にプロレスラーとしての現役を引退しているようだ。

WWF 王座／WWE 統一王座／WWE 王座、を8回。

WCW 王座／世界王座、を2回。獲得している。

WWE の、2002年“レッスルマニア18”では、ロック － ハルク・ホーガンの世紀の一戦では、ブーイングを受けながらも、ロックが勝利している。

2003年、ロックはその後、WWE 統一ヘビー級王者になるが、大物ルーキーのブロック・レスナーに敗れている。

その年“ノー・ウェイ・アウト”で、ロック － ホーガンが再戦したが、ホーガンがスーパースターレグドロップに入りかけたところで、暗転して、ビンス・マクマホン会長がホーガンに対して乱入した。その後、ビンス会長とホーガンは、アングル（シナリオ）の中で、抗争していった。

ロックは、“レッスルマニア19”で“ストーンコールド”スティーブ・オースチンに3度目の戦いで、最後はロックボトム3連発でようやく初勝利を収めた。

その翌日の“ロウ”で、ロックは「オースチンを倒して、もう相手がなくなった」とマイクアピールしていると、元WCWの大物、ビル・ゴールドバーグが登場し挑戦表明した。そして、特番“バックラッシュ”で、ゴールドバーグがスピアの連発からジャックハンマーで、ロックは敗れた。

試合は久々だが、2011年には、ロック&ジョン・シーナ － ザ・ミズ&R-トゥルースの試合がおこなわれた。私はこの試合をDVDで見ていたのだが、シーナが掴まる時間も長かったが、なかなか、ミズとトゥルースも手ごわかった。最後はロックが、ミズにピープルズ・エルボーを放って勝利を掴んだ。しかし、ロックは仲間のシーナにもロックボトムを放ち、“レッスルマニア28”へ戦線布告した。

2012年4月の“レッスルマニア28”では、ロック － シーナの対決が実現。ロックへの大声援と、シーナへの大ブーイング状態になった。最後はロックがロックボトムで勝利を収めた。

2013年には、ロックは、ピープルズ・エルボーでCMパンクを破り、11年ぶりにWWE王座を獲得した。

（感想）俳優業に転身して、プロレスラーも引退したようだが、当時は一応、全てのライバルを倒していた。レスナーと、ゴールドバーグの、2人には勝っていないが。（終）

2020年11月23日（月）

ローマン・レイنزの、頭領になってからの風格は凄い！

WWEの特番、“サバイバー・シリーズ”がおこなわれた。メインイベントで、ノンタイトル戦ながら、WWEユニバーサル王者のローマン・レイنزが、WWE王者のドリュー・マッキンタイアを、フロントネックロック～レフェリーストップで、勝利を収めた。

レイنزは、これまで、WWE所属の同じ血が通う民族の、ジェイ・ウーソらと抗争していたが、「アイ・クイット戦」ならぬ、「お前を頭領と呼ぶ戦」などで、圧倒的な力の違いを見せつけ、レイنزが頭領になることを証明した。

レイنزで1つ気になることと言ったら、持病の糖尿病が心配されるだけだが、それを思わせないほどの強さを見せている。

以前の「ローマン・レイنز襲撃事件」の時も、建物が落ちてきたのに、その後堂々と歩いて引きあげるなど、当時からオドオドするタイプの選手ではなかった。

昔は会社からプッシュされたスーパースター（プロレスラー）という印象で、ブーイングをもらっていたが、優等生的な姿もなくなり、本格的にトップに上りつめた。

その、レイنزに今、ポール・ヘイメンというエージェント（マネージャー）がついたことによって、更に、政治的な側面もフォローしてもらっている。

とにかく、この日、マッキンタイアに圧倒的に勝ったことで、次の敵を探すとなると、休養中のブロック・レスナーか、ランディ・オートンくらいしか名前は上がらない。それだけ今のレイنزは強い。しかし、“ロウ”には、AJスタイルズ、マット・リドル、キース・リー、ブラウン・ストロマン、シェイマスといった、この日の“サバイバー・シリーズ”で、“ロウ組” — “スマックダウン組” 5対5のイリミネーション戦で、誰も負けなかった最強メンバーもいる。私としては、好きなのはAJだが、レイنزとの体躯の差を考えると、リーかストロマンの2人がレイنزに対抗できると思う。でも、それでもレイنزが勝ちそうだから、今、どちらに所属しているかはわからないが、レイنزのピンチに、マネー・イン・ザ・バンクのザ・ミズがフォールすれば、レイنزの時代をストップできるかも。

レイنزは強すぎるし風格もあるから、“レッスルマニア 37”でオートン戦か？（終）

2020年11月30日（月）

「モントリオール事件」は、そもそもメドゥーサへの仕返しだったのか？

『フミ・サイターのアメリカン・プロレス講座』（斎藤文彦／電波社）参照。

メドゥーサという女子プロレスラーは、WWE では、アランドラ・ブレイズというという名前で活動していた。

メドゥーサは、WWE を退団して、WCW に、WWE 世界女子王座のまま移籍して、WCW の番組に登場すると、そのピンク色のベルトをゴミ箱に捨てた。これは、WWE のビンス・マクマホンにとっては許しがたいことだったに違いない。

それから、数年後、WWE では有名な「モントリオール事件」が起こる。ビンスとブレット・ハートの話し合いで、ブレットはビンスに退団を要求。そこでブレットは「特番の試合に勝利して、翌日の“ロウ”で返上する」と訴えた。ビンスもそれを認めた。

WWF(現、WWE)選手権。挑戦者のショーン・マイケルズが入場して、次に、王者のブレットが入場して、会場中で乱闘したあと、ようやく試合開始のリングベル。試合は進み、マイケルズが掟破りのシャープシューターの体勢に入ると、ブレットはタップしていないのに、リングベルが鳴った。これは、ビンスの命令でリングベルが鳴らされて試合は終了した。つまり、マイケルズが新王者で、ブレットは負けた。ビンスにハメられたのだ。ブレットはリング上からビンスに唾を吐き、その後、個室で殴ったのではないかなど諸説ある。

冒頭に書いた、メドゥーサと同じように、ブレットが WWE 王座ベルトを獲得して、WCW のリングに移籍して捨てられるわけにはいかない、とまで考えたわけではないだろうが、ビンスの中では、メドゥーサの一件が蘇ったのかもしれない。

その後、“レッスルマニア 26”（2010年3月26日）で、ブレットがビンスに「モントリオール事件の清算」ということで、一方的に袋叩きにして終わるという試合もおこなわれた。私は、自著『アイディア・プロレスコラム DX (デラックス)』（幻冬舎）の中で、ビンスに対し「この位のことをしたのだぞ、という清算マッチで良かったようにも思えた」。と書いたが、本当のところ発端はメドゥーサなのかもしれない。

WWE は、ブレットにもメドゥーサにも殿堂入りをさせている。無事、解決したのだ。（終）

2020年12月21日（月）

WWE 特番“TLC”。WWE 選手権は、AJ スタイルズ達を退け、ドリュー・マッキンタイアが防衛！

WWE 特番の“TLC”がおこなわれた。

私の予想では、王者交代も考えて、メインイベントになると思った、TLC 戦、WWE 選手権、（王者）ドリュー・マッキンタイア — （挑戦者）AJ スタイルズの試合は、第1試合に組まれた。だから、私は、これはAJがマッキンタイアから王座を奪うことはないな、と思ってしまった。

マッキンタイアは左足を痛めた。なので、AJ は、マッキンタイアの左足へ、ラダーで挟んでのカーフクラッシャー。次はイスで挟んでのカーフクラッシャーを浴びせた。

中盤までは、TLC 戦に慣れている AJ と、慣れていないマッキンタイアという感じだ。

AJ のフェノメナル・フォアアームが完璧に決まる。

AJ のセコンド、オーモスが AJ にラダーを渡している。

試合中、遂に、ザ・ミズがマネー・イン・ザ・バンクのかばんを行使するが、オーモスに場外のテーブルに貫通させられる。

最後はマッキンタイアがベルトを獲得して勝利、防衛した。

第4試合の、WWE・女子タッグチーム選手権、（王者）ナリア・ジャックス&シェイナ・ベイズラー — ASUKA& (X) の、(X) の正体は、なんと久々登場のシャーロット・フレアーだった。

シェイナと ASUKA の、格闘系の堅い女子スーパースター同士の戦いは、いつも面白い。

シャーロットは初めての女子タッグチーム王座戴冠だ。ASUKA は WWE・ロウ女子王座を含めて今、2冠王。

KICK OFF では、8人タッグ戦で、元、LA 道場同士のダニエル・ブライアンと中邑真輔が、中邑有利の展開で肌を合わせた。中邑は後頭部へのハイキックも浴びせた。

ビッグEがサミ・ゼインからフォールしたので、次回の“スマックダウン”で、WWE・インターコンチネンタル選手権（王者）サミ・ゼイン — （挑戦者）ビッグ・Eが決まった。

WWE ユニバーサル選手権では、（王者）ローマン・レインズが（挑戦者）ケビン・オーエンズを、ジェイ・ウーソの力も借りながら退けた。レインズは絶対王者の状態だ。

レフェリーなしの、メインイベント。ランディ・オートンは、リング付近が火で燃える中、“ザ・フィード”ブレイ・ワイアットをリング中央で火だるまにして、エンディング。（終）

5. AEW (オール・エリート・レスリング)。

2020年8月23日（日）

ダーク・オーダーは、nWo のようになれるのか？ MR. ブロディ・リー、TNT 王座戴冠！

かつての WCW には、ハルク・ホーガン、ケビン・ナッシュ、スコット・ホールの3人がオリジナルメンバーで、nWo というユニットが存在した。元々、ナッシュとホールはアウトサイダーズというヒール（悪玉）と言えたが、そこにスーパースターの人気者ホーガンがリーダーとして加入したことで、nWo はヒールになるどころか、ベビーフェース（善玉）になり、世間を巻き込むほどの人気者になった。そして、nWo は更に軍団のメンバーを増やしていったが、やがてマンネリ化で消滅して、何回かいろんな形で再結成されたが、今ではプロレス界からは消えている。でも nWo の T-シャツは今も売れているのかもしれない。

AEW には、私が見始めた 2019 年、旗揚げして半年くらい経った時点から、ヒール軍団のダーク・オーダーというユニットが既に存在している。だが、いわゆる仮面ライダーで言えば、マスクを被ったジョッカーのような何の個性もない単なるヒール役だったので、最近もそうだが、私は全く面白みを感じなかった。しかし、ダーク・オーダーはだんだんと、自分達の軍団に目のつけたレスラーを勧誘したりして、仲間にしてしまう動きを見せた。

そんな中、元、WWE の、MR. ブロディ・リー（WWE 名は、ルーク・ハーパー）という背が高く、巨体の選手が、突然、ダーク・オーダーのリーダーになった。リーは厳しく子分達に指示を出して、恐ろしい存在になった。勧誘も、例えばコルト・カバナに目をつけると自分達の軍団に入れてしまい、カバナはいつもとまどっていた。女子選手もアンナ・ジェイをいつの間にか軍団に入れていた。

しかし、ダーク・オーダーが nWo のような軍団になるかといえば、全くそういう路線は意識していないようだ。リーダーがヒール色の濃すぎるリーというところを見ても、軍団自体に人気が出るということはなさそうだが、強くて嫌なヒールになるかもしれないという意味では、立派なユニットだと思う。

そして、AEW “ダイナマイト” の番組のメインイベントで、TNT 選手権。（王者）Cody （挑戦者）ブロディ・リーの試合が行われた。ちなみに AEW の中で、TNT 王座とは、AEW 世界王座に次ぐ 2 番手の価値のあるベルトと言っている。試合はなんと一方的にリーの投げっ放しジャーマンなどが決まり、Cody は防戦一方。リーはシットダウン・パワーボムを魅せると、最後はディスクス・クローズライン一撃で 3 カウント勝利。まさかの展開に場内は呆気にとられた。Cody は担架で運ばれたが、ダーク・オーダーの面々が Cody を襲撃。Cody の仲間も襲撃されて、妻のブランディ・ロードスが Cody をかばうと、アンナがブランディにスリーパーホールド。実況も「NEW ERA!（新しい時代!）」と叫び、暗黒に染まった。

注：（ジョン・フーパー（ブロディ・リー）さんは、2020年12月26日に亡くなった）。

（終）

2020年9月25日（金）

Cody の復活の登場は、かつての WCW のスティングの nWo 退治のようで、かっこ良すぎだ！

AEW で、Cody は以前、AEW・TNT 王者として、ヒールユニット、ダーク・オーダーのリーダー、プロディ・リーと戦った。しかしリーに短い時間で圧倒されて、Cody は敗れ王座を明け渡した。

その後、リーの TNT 王座に対して、Cody の異母兄のダスティン・ロードスが挑戦して、なかなか玄人好みの良い試合をしたが、最後は、ダスティンは敗れてしまった。

この日は、クリス・ジェリコを倒すなど波に乗るオレンジ・キャンディの、リーへの挑戦が決まっていた。キャンディはいつも通り挑発するような攻めを見せるが、リーの陣営ダーク・オーダーも集団でキャンディに攻撃したりして卑劣な手を使う。しかし、最後は、リーの必殺技ディスク・クローズラインが決まり、リーが TNT 王座 2 度目の防衛に成功した。しかし、試合後、敗れたキャンディに対して、ダーク・オーダーが集団リンチを浴びせると、壮大な音楽が流れ、紅いマグマのような映像が映ったかと思うと、激しい音楽とパイロンや花火、レーザー光線の中、白い髪色を黒くしたスーツ姿の Cody が登場した。顔は精悍（せいかん）でかっこ良すぎる！ すると、ダーク・オーダーの子分を 1 人、1 人と倒して行って、最後の 1 人は鉄柱に足をぶつけると、足四の字固め（フィギュア・フォー・レッグロック）で悲鳴を上げさせた。既（すで）にリーダーのリーはその場から逃走していた模様だった。これは事実上の現、TNT 王者リーへの Cody の再戦要求ということになるだろう。

かつて、WCW では、いつものように増殖した nWo 軍団がリング上で、ベビーフェースの面々を攻撃していた。すると、天井から背中にワイヤーをつけた顔中白いペイントのスティングが登場してリングサイドに降りると、nWo の面々を黒いバットで次々と倒していった。そして、最後には nWo メンバーの 1 人を抱えて、ワイヤーをまた背中につけて上空へ行き誘拐して去っていった。

私は、これをビデオ屋でレンタルして見たのだが、解説は nWo に入り、日本で nWo-JAPAN を作った蝶野正洋だった。蝶野はこれを見て、「俺はこいつ好きじゃない。かっこ良すぎる。好きじゃない」という発言をしていて、ジョークで言っているのか？ 本気で言っているのか？ わからなかったから、それも面白かった。事実、蝶野は nWo の人間なのにスティングに良いところを持っていかれたら、反感を買うのが普通かもしれない。

話は戻り、Cody はかっこ良すぎる演出で、ダーク・オーダーを次々と倒した。スティングもかっこ良すぎる登場で、nWo をバットで次々と倒し誘拐した。Cody は髪の色は黒でも白でもいいけど、ハンサムすぎる。身長は 185cm、体重は 100kg だけど、アメリカだと少し小さいのかもしれない。こんな入場の映像を見たら、WWE は Cody を逃したのはもったいないのではないのか？ Cody はいつの日か、この入場シーンを大観衆の中でやりたい。（終）

2020年10月25日（日）

Cody とブランディ・ローデスは、最高の美男・美女カップル！

Cody（男性）とブランディ・ローデス（女性）は、今、AEW で共にプロレスラーとして活躍中である。Cody が試合の時には、ブランディと一緒に入場してセコンドにつくこともある。ちなみに、2人共、WWE 出身で、夫婦だ。当時、Cody はレスラー、ブランディは“NXT”でリングアナウンサーとして活躍した。

2人はいつからの付き合いになるかはわからないが、WWE かその後の団体ということになるだろう。私が WWE ではない団体で見た時、Cody には既に、ブランディがセコンドについていた。Cody はとてもハンサムで白人。ブランディは美しく少し褐色の肌で最初は珍しいと思って見ていたが、今は全く見慣れた。

最近の AEW で言えば、ブランディは、久しぶりに Cody のセコンドについたりしていたが、アリーとタッグチームを作って戦ったり、Cody の異母兄に当たる、ダスティン・ローデスなどのセコンドにつく機会が多かった。

Cody は、初代 TNT 王座に輝いたが、ブロディ・リーに奪われるも、見事に第3代としてベルトを奪い返した。

話はちょっと変わるが、WWE に以前、マリア（現、マリア・ケネリス）という女性がいたが、かなりかわいいタイプの赤毛の外国人女性だった。しばらく他団体にいなくなったと思ったら、マイク・ケネリスという中堅レベルの男子レスラーと結ばれたようだ。しかし、WWE で一緒に戻ると、マリアは女性の中でもアイコンが高く、レベルも上だったが、マイクは中堅でちょっとさえないという感じだった。それでも見捨てない女性のマリアは凄いなと思ったが、そういうレスラー夫婦もある。

どちらが上というわけではないが、Cody とブランディは、どちらも団体の中で中心の役割をする一流の存在だ。Cody は男子のエースで、ブランディは女子の代表格。だから、そういう例もあるということだ。WWE で言うならば、ブロック・レスナーとセイブルとか、ザ・エッジとベス・フェニックス……みたいな一流同士の夫婦だ。

私は、Cody は相当好きなレスラーではあるが、クリス・ジェリコと比べたらどっちがいいか？ となると、ジェリコである。Cody は全てがかっこいいが、ちょっとまともすぎて遊びがない。WWE 時代はランディ・オートンが代表の3人組ユニットの、レガシーにいて、ヒールを演じていた。だが、AEW では完全なるナンバーワンのベビーフェイスになった。だから、かっこいいけど遊びがないという意味では、試合が退屈に見えてしまうこともある。ジェリコはやっぱ、存在が楽しいと思う。ジェリコの場合、ヒールでもベビーフェイスでもなくて、クリス・ジェリコという存在そのものになっている。Cody もそうでありたい。

しかし、Cody とブランディという2人は、なんて最高のカップルなのかと憧れる。（終）

2020年10月30日（金）

AEW で、NWA 世界女子選手権。(王者) セレナ・ディーブ — (挑戦者) レイラ・ハーシュ。

かなりマニアックな試合を選ばせてもらったが、NWA が、今、NWA Powerrr という番組を放送していないのであれば、NWA のベルトは、どこの管轄になっているのかわからない。

NWA 世界女子王座は、以前、サンダー・ロサが NWA Powerrr で新王者になり、ベルトを持っていたが、コロナ禍で、NWA Powerrr の番組がストップした模様。そして、AEW で、サンダーの NWA 世界女子王座は懸けないで、志田光の AEW 女子世界王座だけを懸けて、AEW と NWA の女子王者が直接対決したが、光が勝利して、AEW が上という形になった。

AEW 女子世界王者の光と、NWA 世界女子王者のサンダーがタッグを組み、女子タッグトーナメント王者のイヴァリース&ディアマンテと闘ったこともあるが、光&サンダーがタッグ頂上対決で勝利をするということもあった。

そして、この日の“ダイナマイト”、AEW の試合では、サンダーがベルトを奪われた模様で、セレナ・ディーブというややベテラン風の選手が NWA 世界女子王者になっており、日本の女子プロレス団体、スターダムでもお馴染みのレイラ・ハーシュが挑戦した。

レイラは前日の AEW “ダーク” に出場して、光とノンタイトル戦を戦った。入場の時には、リングサイドのレスラー達にハイタッチすると見せて、中指を立てていたので、気が強いと思った。そして、私も実は、「レイラ・ハーシュという名前と、この顔どこかで見たな、あっ、わかったスターダムにいたレイラ・ハーシュではないか！」という反応をしたのだ。小柄だが、スターダム時代でも、ボディーガードと呼ばれるほどの存在だったので期待した。でも、光に勝って欲しかった。最後は光が珍しくファルコンアローで勝利を奪った。

そして、ようやく、この日の“ダイナマイト”、NWA 世界女子選手権、(王者) セレナ・ディーブ — (挑戦者) レイラ・ハーシュの試合である。セレナも AEW 初出場の NWA 世界女子王者だから、これは、セレナは負けないだろうと思った。そして、前日の～ダーク～を見てもレイラがいきなりベルトを奪うことはないだろうと思った。最後はセレナがレイラを、腕極め式のハーフポストクラブ～タックアウトで防衛した。

これで、改めて、AEW 女子世界王者の光と、NWA 世界女子王者のセレナのタイトルマッチがあっても面白いと思った。そして、デビューから2連敗スタートとなったが、実力のあるレイラが再度、王座争いに絡んできたら面白い。そういう意味では、今、スターダムから新日本プロレスにも上がっている、ビー・プレストリーなんかも AEW のマットに復帰してくれればいいが、ちょっと忙しいかもしれない。

AEW のリングでの、NWA 世界女子王座という響き、プロレスマニアにはたまらない。(終)

2020年11月8日（日）

AEW 特番“FULL GEAR”。純アメリカンプロレスと、ストロング・アメリカンプロレス！

日本時間11月8日（日）に、AEW 特番“FULL GEAR”がおこなわれた。私が名付けるなら、メインイベントは、ストロング・アメリカンプロレス。セミファイナルは、純アメリカンプロレスというような、はっきりとした違いがある2試合だった。

セミファイナル。○MJF — ●クリス・ジェリコの試合は、スクールボーイで、MJF が勝った。この試合の条件は、MJF が勝ったら、ジェリコのユニット、インナーサークルに MJF が入るというルールだったので、試合後、ジェリコと MJF はお互いに手を繋いで上げて、合体したようだ。私は、ジェリコと MJF は危険度が無い、悪く言えばスリルが無い、でも、安全な試合だった。お互い、純アメリカンプロレスというほどの、アメリカンプロレスにどっぷり浸かった試合をしていた。ジェリコだけでなく MJF もだから、非常になんとかコーヒードで言ったら味わいがあるな、と思った。最後は、ジェリコがセコンドから渡された金属バットを持ったら、MJF が突然倒れた。レフェリーが振り向くと、ジェリコが MJF を殴ったような状態になり、ジェリコとレフェリーが固まっている隙をついて、MJF がジェリコをスクールボーイで丸め込んだ。これで、MJF はインナーサークル入りとなるのだろうか？

メインイベント。AEW 世界選手権、I Quit 戦（「負けた」と言ったら終了の試合）。（王者）○ジョン・モクスリー — （挑戦者）●エディ・キングストンの試合は、モクスリーが勝ち防衛した。私の中でキングストンは、プロレスのエンジェル（シナリオ）がなしで、シュートを仕掛けて、モクスリー選手をスクリーする可能性があると思っていた。だから、非常に小心者の私は、この試合はモクスリーに勝って欲しいという緊張感があつた。しかし、終わってみればだが、モクスリーとキングストンには、力の差があつた。モクスリーは本当の危険地帯に入るまでは技を受けていた。一度、サイドスリーパーホールドに取られたが、それを見事にしのいでディフェンスした。チキンウイングアームロックもディフェンスした。金的を連発で、足で踏みつけられた時も余裕で中指を立てた。最後は、モクスリーが腕に有刺鉄線を巻き、サイドスリーパーホールドで締めて、最後に思いっきり絞めたところで、キングストンがわずかに「I Quit」と喋り、レフェリーが試合終了を告げた。試合後、モクスリーはキングストンと肩を組もうとしたが、キングストンは拒絶して去った。すると、次期挑戦者のケニー・オメガが現れて、モクスリーに軽く戦線布告した。

日本で言えば、単純に、純プロレスと、格闘プロレス、のような2試合だった。（終）

2020年11月8日（日）

AEW 特番 “FULL GEAR” AEW 世界女子選手権、志田光勝利！ NWA 女子世界王座……他！

AEW 特番 “FULL GEAR” のメインとセミは書いたので、その他の試合を書く。AEW では、AEW 女子世界王座があるが、最近 NWA 女子世界王座も、この AEW のリングで争われているタイトルだ。

第4試合。AEW 女子世界選手権、（王者）○志田光 — （挑戦者）●ナイラ・ローズの試合では、スタンディングの必殺技、Tamashii のような形で、光が王座防衛。第3代にして、絶対王者になりつつある。

プレッシャー。NWA 女子世界選手権、（王者）○セレナ・ディーブ — （挑戦者）●アリン・ケイは、セレニティロック〜タップアウトで、セレナが防衛。しかし、そこに、前？ NWA 女子世界王者のサンダー・ロサが戦線布告した模様。

第1試合。AEW 世界王座ナンバーワン・コンテンダー、トーナメント決勝、○ケニー・オメガ — ●“ハンクマン” アダム・ペイジは、案の定という感じでオメガが片翼の天使で勝利。AEW 世界王座も初代：クリス・ジェリコ、2代目：ジョン・モクスリーと来て、3代目：オメガもそろそろ取りたいはずだ。

第2試合。TNT 選手権、（王者）●コーディ・ローデス — （挑戦者）○ダービー・アリン。エビ固めで丸め込んだ。コーディが勝つと思ったが、アリンが新王者。これは大きな意味を持つだろう。試合中はコーディが場外に行ったらブーイングが起こった。アリンのスティングのような正統な怪奇派の人気か？

第5試合。AEW 世界タッグ選手権、FTR（●キャッシュ・ウィーラー&ダックス・ハーウッド） — ヤングバックス（○マット・ジャクソン&ニック・ジャクソン）。スーパーキック〜体固めで新王者。遂に、ヤングバックスもタイトルを獲得。AEW の副社長陣営では（オメガ、コーディ、ヤングバックスの2選手）のうち、あとは、オメガが AEW 世界王座を獲れるかだ。

第6試合。○マット・ハーディー — ●サミー・ゲバラ。

第3試合。●ジョン “4” シルバー — ○オレンジ・キャシディ。

（感想）前述したが、私は、AEW 女子王座や、NWA 女子王座にも、注目している。（終）

2020年12月3日（木）

AEWになんと、スティングが電撃登場！ 3代目、新AEW世界王者にケニー・オメガ！

この日は、AEWの“ウィンター・イズ・カミング”で、2大ビッグニュースがあった。

結論から言えば、AEWのリングにサプライズで、スティングが登場したことだ。2つ目は、AEW世界選手権、ジョン・モクスリー — ケニー・オメガで、遂に長期政権を築いてきた、モクスリーが敗れて、オメガが3代目、新AEW世界王者になった。

以前、スティングは、WWEの特番“レッスルマニア31”で、トリプルHと戦ったが、最後はハンマー攻撃で敗れた。“ナイト・オブ・チャンピオンズ2015”では、セス・ロリンズに敗れて、後日引退を表明した。

しかし、2016年にWWEで“殿堂入り”した。私が、ある日、ユーチューブで見っていたら、「プロレスラーを辞めたら、毎日が暇になった」と語っていた。

一度、リック・フレアーの70周年記念誕生日会という、WWEの番組のシナリオの中で、ゲストとして登場したが、それ以来は見えていなかった。

そして、今日、AEWのダービー・アリン&コーディ・ローデス — リッキー・スタックス&パワーハウス・ボブスの試合が終わったあと、タズ、ブライアン・ケイジ、スタックス、ボブスなどが、ベビーフェースの2人を襲撃していた。すると、照明が消え、雪の中のような背景にカラスが映っている映像の中、なんとスティングが白い顔のペイントと、黒いバットを持って入場した。アーン・アンダーソンや、コーディ、アリンなどと視察戦を展開して去っていったが、スティングはどう見ても、ベビーフェースだろうと思った。それかWWEで引退宣言（試合）をしたから、AEWでは試合をしない可能性はある。注目だ。

AEW世界選手権では、オメガがモクスリーを片翼の天使で破り、新王者になった。モクスリーは第2代目で戴冠日数は277日間保持したが敗れた。強引に言えば、モクスリーがWWEから来たスーパースターズ（プロレスラー）ならば、オメガはAEWの副社長だ。WWE — AEWの代理戦争に、AEWのオメガが勝利したという見方もできる。

途中で、レフェリーがオメガの怪我の心配をして集まったが、これはどうやらアングル（シナリオ）だったようだ。だから、その隙にオメガはモクスリーにマイクで一撃して流れが変わった。そこには、1人だけ謎の男が絡んでいたが、私は、こういった乱入やアクシデントなしの普通の勝負でも十分だったと思う。それでも、モクスリーの価値は落ちなかったはずだ。しかし、試合後、オメガは右目をひどく怪我して赤くなっており、勝つと同時に、謎の男と走って駐車場に行き、AEW世界王座のベルトを持って去っていったが、理由もよくわからない。でも、オメガの試合というのは、終わって見ればいい試合という気がする。
注：この謎の男は、インパクト・レスリングの重役、ドン・キャリスという人物だ。（終）

2020年12月7日（月）

マット・サイダルの「ナマステ」とは何か？

AEWにだいぶ前から、マット・サイダルが登場している。身長は小さいが、とても人懐っこいかわいい顔をしている。

このサイダルはAEWに登場してから、試合中に人差し指をおでこにつけるポーズや、両手をグーとパーにして合わせてお辞儀をするポーズをしている。

サイダルが出始めの頃、実況・解説陣はこのポーズを見て、「ナマステ～」と合唱して笑い合っていた。

この「ナマステ」というのはサンスクリット語で、インドやネパールで使われる挨拶の言葉らしい。会った時だけでなく、別れの挨拶も「ナマステ」のようだ。

挨拶なら、お辞儀のポーズはわかるが、サイダルは執拗に人差し指をおでこにつけるポーズを、技と技の間に繰り返したりする。これも多分、意味がありそうだ。

これは、関係ないと思うが、同じAEWで、レッド・ベルベットという女子プロレスラーは、左手を仰向けにしなが、右手でぐるぐる回転させてかき混ぜるポーズをする。私はこれも「ナマステ」と関係があるのかな？ と思ったが、これは何かの意味があるだろうが、「ナマステ」とは関係なさそうだ。

「ナマステ」はヨガの時の挨拶にも使われるようだ。レッスンの始まりや、終わってからこの言葉を使うと、非常に良い気持ちになれると書かれている。

ヨガと言えば、プロレスラーでは、DDPだが、DDPも長いことヨガをやっているから、今では多くの弟子を持つヨガの先生になっていると思う。DDPは、AEWマットに1度上がっていた時期、マイクパフォーマンスをしていたら「ヨーガ！ ヨーガ！ ……」とコールが起こり、DDPも「参ったな」という感じで笑っていた。

ちなみに、サイダルは、WWE時代には、エヴァン・ボーンという名前で、2011年頃、コフィ・キングストンとタッグを組んで活躍していた。私は、「そうだよ、ボーンがサイダルと同一人物だよ」と最近、気づいた。

私は、サイダルにはこれからも、「ナマステ」のパフォーマンスを続けて欲しい。（終）

2020年12月9日（水）

ケニー・オメガは、AEW 世界王座を獲得したあと、インパクト・レスリングに持ち去った！

今日、私は、インパクト・レスリングを見ていたら、そこに AEW 世界王座を獲得した、AEW 所属のケニー・オメガが登場していた。

話を戻すと、AEW の、前回の“ダイナマイト”の特番“ウィンター・イズ・カミング”で、オメガはジョン・モクスリーをややずる賢い手で破り、ベルトを掲げると、ドン・キャリスと共に、会場前にある車へ走っていった。そして、リムジンのような車に乗り込んで、エンディングを迎えた。

そうしたら、何故か今日、AEW とインパクト・レスリングの間に密約があったのか、番組の枠を超えて、オメガがインパクト・レスリングの番組に登場した。リムジンの中で、インパクト・レスリングのアナウンサーと、キャリスと、オメガで話をしていた。何を喋っていたかはわからないが、キャリスは、ベルトのプレートを「ジョン・モクスリー」から「ケニー・オメガ」に変えている映像があった。

オメガは AEW の副社長の 1 人だから、この突然のインパクト・レスリングへの登場は何を意味しているのかはわからない。

WWE が 1 強時代において、AEW と、インパクト・レスリングと、NWA 女子世界王座も、AEW で扱うことを考えれば、WWE に対するアンチテーゼ（反対の理論・主張）で、連合軍を組んでいくことも考えられる。

しかし、これは、TNA が、世界中の団体と提携しようとして失敗した例があるので、オメガがまだ何をやりたいかはわからないが、失敗する恐れはある。でも、番組的には面白い。

日本でも、新日本プロレスが、WWE ほどではないにしても、1 強状態だから、プロレスリング・ノアや全日本プロレス、DDT プロレスリング……などが大同団結して、新日本を脅かすような形になったら、日本のプロレス界はもっと楽しくなりそうだ。

とにかく、オメガが面白い波紋を投げかけたので、ここからどんな動きがプロレス界に起きるのかに期待したい。

プロレスも日米含めて、対抗戦や、オールスターなんてことがあればワクワクする。(終)

2020年12月22日（火）

志田光は、何故、こんなに強いのか？ AEW 女子部門を整理。

AEW 所属の、志田光が強い。第3代 AEW 女子世界王者になってから、5度の防衛に成功している。ちなみに、初代 AEW 女子世界王者だった里歩は、4度の防衛、光はそれを追い越している。

しかし、AEW には、WWE の女子部門のように、例えば、ASUKA、シャーロット・フレアー、ベッキー・リンチ、“ラウディ” ロンダ・ラウジー……といった大物の実力者がいないのではないかと聞かれると、少しその部分はあるような気もする。

だが、AEW にも良い女子プロレスラーが揃っている。整理する為に、少し記してみる。

光、アバドン、アンナ・ジェイ、イヴァリース、クリス・スタットランダー、サンダー・ロサ、セリーナ・ディーブ、タイ・コンティ、ディアマンテ、ナイラ・ローズ、ビッグ・スウォール、ブランディ・ローデス、ブリット・ベイカー、ペネロペ・フォード、レイラ・ハーシュ……といった女子プロレスラーだ。

まず、シングル部門ではコーディ・ローデスの妻、ブランディ・ローデスは強いが、タイトル戦線には絡もうとしない。

タッグ部門では、前回 AEW 女子タッグトーナメントを制した、イヴァリース&ディアマンテも存在感を現している。

シングル部門の、光の AEW 女子世界王座のライバルになってきそうなのは、ビッグ・スウォール。

もう一段階下げると、アバドン、アンナ・ジェイ、クリス・スタットランダー、タイ・コンティ、ナイラ・ローズ、ペネロペ・フォード、レイラ・ハーシュ。

シングル部門の、NWA 女子世界王座も、AEW で争われる形になっている。でも、光の王座ではなく、そちらの王座に目を向けているのが、サンダー・ロサ、セリーナ・ディーブ、ブリット・ベイカーといった面々だ。

光はサンダー・ロサには勝ったことがあるが、元、NWA 女子世界王者のセリーナ・ディーブ、とは試合をしていない。他に、実力のあるブリット・ベイカーは何故かこのタイミングで光のベルトではなく NWA 女子世界王座のほうに舵を取ってしまった。

AEW は、AEW と NWA の2つの女子世界王座があるのはいいが、AEW 女子世界タッグ王座のベルトを作るべきだ。光は次、アバドンを倒して、ビッグ・スウォール辺りと対戦か？ （終）

6. 新日本プロレス。

2020年7月6日（月）

高橋ヒロム — 矢野通。最高に面白い試合！ 1階送り→リングアウト。

新日本プロレスの『ワールドプロレスリング』の番組を見た。

新日本、NEW JAPAN CUP 2回戦。高橋ヒロム — 矢野通の試合が行われた。かつて、2011年9月の、9年前、矢野はバリカンでヒロムを丸坊主にした。

私は最初、大真面目に、獣神サンダー・ライガーの後継者になるぐらいの、強いイメージのヒロムに期待したが、矢野のバリカンを怖がるのか、リングではヘルメットを被っていて、ふざけているように見えてしまった。矢野はレフェリーのチェックでは何も持っていなかったが、試合開始のゴングが鳴ると、いきなりバリカンを持っていた。ヒロムは場外へ逃げて、矢野は「上がって来い！」と言うが、ヒロムは「やめる、帰る」と言ってリングの下に消えてしまった。するとレフェリーが場外カウントを数える。矢野も場外に出てリング下に探しにいくが、矢野と逆側から出てきたヒロムはバリカンを持ってリング上へ戻る。矢野はカウント18でリングに戻る。しかし、ヒロムのバリカンは壊れていて、矢野は新たにバリカンを出してヒロムの頭を刈ろうとする。ヒロムは「こんなことやるためにレスラーになったんじゃないよ！」と言う。また、場外で矢野がトロフィーの中からハサミを持ち出す。矢野はテーピングを取り出すと、止めに入ったヤングライオンの辻陽太とヒロムの片足ずつをまとめてぐるぐる巻きにして固定する。そして矢野がヒロムの髪をハサミで切った。怒ったヒロムはエレベーターの前で矢野を倒すと、矢野の両腕と顔をそれぞれぐるぐる巻きにして、開いていたエレベーターに放り込んだ。矢野を乗せたエレベーターは下の階に降りていってしまった。すると、レフェリーが場外カウントを数える。ヒロムと辻は2人で、二人三脚でリングへ向かう。もたつくが、なんとかカウント19でヒロム達はリングに辿り着く。すぐにカウント20が数えられて、ヒロムの勝利。エレベーターの階が映され1階の“1”が表示されていた。矢野はエレベーターで1階に行ったのだろう。救出されたのか？（笑）。

○高橋ヒロム 「9分17秒 1階送り→リングアウト」 矢野通●

という決着だ。

（感想）私は、こんなに楽しい試合は、少なくとも新日本では、初めて見たと思う。WWEや、AEWでは、あまり見られないタイプの試合内容だと思った。例えば、日本のDDTプロレスリングなんかには近いかな？ と感じた。矢野はこういうプロレスが出来るから、新日本でも欠かせないプロレスラーなのだと感じたし、その相手となったヒロムの存在も良かった。前述したが、ヒロムはライガーのような正統な強さやカリスマ性を受け継いでいだけかと思ったら、こんなユニークな試合も見せてくれて、幅が広いなと思った。私は、遅いけど、ヒロムの良さにだんだんと気づき始めている。それをこの試合は特に思わせてくれた。無観客試合だからできた試合でもあるが、長いことプロレスを見ているけど、相当、面白かった。

（終）

2020年8月29日（土）

オカダ・カズチカ、しれっと「必殺技のレインメーカーを封印、変型コブラクラッチ」宣言！

『週刊プロレス 2020 9. 9 No. 2080』（ベースボール・マガジン社）参照。

オカダ：（変型コブラクラッチ）は、ボクのなかでは、レインメーカー以上の技ができた
と思っているので。

オカダ：レインメーカーはもう出さないですね。

紙面：自粛期間中にたどり着いた答えの一つ、変型コブラクラッチという 新たなフィニッシュホルダー「もうレインメーカーは出さない」（以上、引用）。

オカダはこのインタビューの中で、しれっと（何事もないような顔で攻撃的なことを言うさま）、「レインメーカーという、オカダ＝（イコール）レインメーカー。と言っていくらいの必殺技を封印して、変型コブラクラッチを今後のフィニッシュ技にする」というような内容を語った。しれっとと言うほど、淡々と話したとか、適当に決めた訳ではないとは思いますが、オカダには結構、そういうところがある。かつての本『オカダの部屋』（オカダ・カズチカ／イースト・プレス）でも、まだ CHAOS 時代の外道がオカダの対応に対して、「お前、しれっと、驚くようなことを話すよな」と語っていた。

話は戻り、オカダは今年の NEW JAPAN CUP では決勝まで行って EVIL に敗れたが、予選で勝った4試合とも変型コブラクラッチで勝利を取めた。決勝でレインメーカーを出すのかなと思ったがオカダは終始、変型コブラクラッチにこだわり、乱入を食らい敗れた。しかし、NEW JAPAN CUP 後の、高橋裕二郎との試合では、ツイスト式のツームストーン・パイルドライバーのあと、変型コブラクラッチで勝利した。

オカダが聞いたら、「また昔の人との比較ですか？」と思われるかもしれないが、このオカダの変型コブラクラッチは、武藤敬司の足四の字固めの味付けに似ているという気がする。確かに、まだ、オカダの変型コブラクラッチは、裕二郎に2度指を噛まれて脱出されるなどということもあり、完成形には達していないかもしれない。

オカダは今までは、レインメーカーという技を使っていた訳だが、「バチーン！」というフィニッシュで豪快だった。だが私は、オカダが変型コブラクラッチを使ってからは、こっちのほうがクラシックチックでいいな、と思った。

例えは悪いが、欠場中の柴田勝頼の事実上の最後の相手がオカダ戦で、レインメーカーを受け止めたことも欠場の理由と言われている、そういう理由も考慮したのか？

オカダも30歳を越えて、レインメーカー用の右腕がそろそろボロボロになってきてもおかしくない。そこで、変型コブラクラッチをフィニッシュ技にすれば、長生きできるプロレスラーになれると思う。

あとはビッグマッチなど、変型コブラクラッチで試合が決まらなかった時、遂にレインメーカーを出すことはあり得ると思うが、それをしなければオカダを益々応援したい。（終）

2020年9月9日（水）

感動の内藤哲也！

内藤哲也と言えば、最近では（前から？）、「逆転の内藤哲也」と呼ばれる。しかし、私は、それもあると思うが、「感動の内藤哲也！」でもあると思う。

私は、今から一番最近に行ったプロレス観戦が、2019年6月28日の「WWE Live Tokyo」、つまり、WWEの日本公演である。その前が2016年7月1日の「WWE Live Japan」、これもWWEの日本公演である。その前が、2016年4月10日の『INVASION ATTACK 2016』新日本プロレス、両国国技館大会である。それ以前は憶えていない。

とにかく、新日本の両国国技館大会では、内藤が自ら『無敵のIWGP王者のオカダ・カズチカに、内藤が勝って欲しい』という空気が漂っていましたよ」と語る通り、私も観に行ったら、内藤に勝って欲しいという異様なファンの雰囲気を感じずにはいられなかった。あれは異様な空気だった。試合が終わり「デ・ハ・ポン！」の大合唱のあと、客席を離れて出る時まで、「STARDUST」のテーマ曲が頭を反芻（はんすう）して消えなかった。あれは非常に不思議な体験だった。

そして、今回は、テレビで見たのだが、明治神宮野球場で、2冠戦（IWGPヘビー級&IWGPインターコンチネンタル）。（王者）EVIL — （挑戦者）内藤哲也の試合があった。内藤がデスティノで勝ち、2冠王座を奪回した。試合後、リング上で内藤が「デ・ハ・ポン！」の大合唱をやると、花火が打ちあがった。私は、テレビを見ながら花火のさまざまな記憶を思い出したのか、突然泣き出してしまった。正直、内藤には感動した。

『内藤哲也自伝 トランキーロ EPISODIO 3 下巻』（内藤哲也／イースト・プレス）参照。
・2019年11月、右目上斜筋麻酔の手術を行なった直後、2020年1月の二冠達成まで、手術の事実は伏せていた。（以上、引用）。

私は、何が原因で内藤は右目を怪我してしまったかはわからなかったが、1つ思い出す試合としては、2018年6月9日大阪城ホールでの、クリス・ジェリコとの初めての試合だ。あの試合でジェリコに場外で机にDDTなどを食らっていた時、内藤を見たら、目がヤバイくらいに充血していた。これが原因とも考えられるが、2019年11月に手術したということだから、年月が経ち過ぎているかもしれない。ちなみに、この試合ではジェリコがコードブレイカーで勝利して、IWGPインターコンチネンタル王者に輝いた。

でも、負けたままでは終わらなかった内藤は、2019年、1月4日、東京ドーム大会「WRESTLE KINGDOM 13 in 東京ドーム」で、ジェリコと再戦。最後はデスティノで勝利して、IWGPインターコンチネンタル王者に返り咲いた。

ざっと私の中の内藤を振り返ると、この4試合を振り返る。ただし、2冠戦は試合というよりも、花火の演出に自然と心が動かされたという感覚だ。「感動の内藤哲也！」と書かせてもらったが、そういうプロレスラーのほうが、記録よりも大事なのではないかと思う。（終）

2020年11月29日（日）

グレートオーカーンは、まだしょっぱいけど、今後の活躍に期待！

新日本プロレスの『ワールドプロレスリング』、2020年11月7日の、大阪府立体育会館 エディオンアリーナ大阪、興行の3試合が放送された。

先日の「G1 CLIMAX30」の、オカダ・カズチカ — ウィル・オスプレイの試合中、オスプレイの恋人、ビー・プレストリーが介入している間に、グレートオーカーン（以下、オーカーン）が乱入してオカダに攻撃した。

オスプレイはオカダを裏切ったことになるが、この新ユニットの名前はわかりやすく、THE EMPIRE（ジ・エンパイア）という名前ようだ。

この日は、オカダ — オーカーンが対決して、オスプレイは、リングサイドでワインを飲みながら観戦するというイギリスの紳士スタイル。オシャレなメガネもかけていた。

オーカーンの攻めは、モンゴリアンチョップが主体だが、解説によると、キラー・カーンを彷彿とさせるものらしい。私はモンゴリアンチョップと言え、天山広吉の印象があるから、オーカーンのスタイルはチョップしながら押し倒すスタイルだと思った。他には、王統流二段蹴り、リバーズブレンバスター、そして必殺技はエリミネータースラム（アイアン・クロー・スラム）という技を魅せた。技の数が少ない中で組み立てるのは若いうちは難しいかもしれないが、このくらい技の数が少なくて、強くなれば、例えば、武藤敬司などのようであり、面白い存在になりそうだ。

試合は、オーカーンのエリミネータースラムをことごとく、交わしたオカダがマネークリップの連続で、レフェリーストップで勝利した。これで2021年の、東京ドーム、1月4日にオカダ — オスプレイの試合が決定した。オスプレイ率いるジ・エンパイアもどういう軍団になるのか楽しみだ。

NEVER 無差別級選手権試合では、（王者）鈴木みのる — （挑戦者）鷹木信悟がまた戦った。試合内容もいつも通りで、自分が1発攻撃したら、相手が1発攻撃するというパターン。こういう意地の張り合いは、昔の鈴木は、永田裕志や秋山準と張り合いを演じたりしていた。プロレスだからいろんな表現があっていいと思うが、NEVER 無差別級ではこの試合のパターンが多い。石井智宏、後藤洋央紀、KENTA、タイチ……など。ちなみにこの試合は、鷹木がラスト・オブ・ザ・ドラゴンで鈴木を破り、新王者になった。

KOPW 2020 選手権、（王者）矢野通 — （挑戦者）ザック・セイバー Jr. は、4つのコーナパッドを剥がして戦う試合になった。最後は矢野がザックの靴紐を鉄柵に結んで、場外10カウントアウトで勝利して防衛した。WWE に、面白さの意味で、矢野にオファーが来ても良い。中邑真輔もいることだし。（終）

2020年11月30日（月）

内藤哲也の「俺の意見が通るっていうのは なかなか珍しいパターン」。

来年の、新日本プロレス、2021年1月4日、1月5日の2冠戦のカードが決まっている。何故か、IWGP 権利証保持者のジェイ・ホワイトが、「1月4日は休みにして、1月5日に2冠王座に挑戦する」と発言して、それが通った。だから、まともに考えてしまうと、1月4日に2冠戦はなくて、1月5日に、2冠選手権、（王者）内藤哲也 — （挑戦者）ジェイ・ホワイト、だけという可能性もあったわけだ。

しかし、内藤が、1月4日に、G1 覇者の飯伏幸太とやりたいと言うと、新日本会社は熟考を重ねた上、それを通したということで、1月4日に、2冠選手権、（王者）内藤哲也 — （挑戦者）飯伏幸太、の試合が決まった。この勝者が、1月5日、2冠選手権、（王者）{1月4日の勝者} — （挑戦者）ジェイ・ホワイトになることになった。

内藤は1月4日に、飯伏との2冠戦が組まれたことについて、「俺の意見が通るっていうのは、なかなか珍しいパターンだ」と話した。

内藤は、以前はよく、意見を出したが「どうせ俺の意見なんて、会社は聞いてくれないだろうけど」と言って、本当に実現しないパターンも多くあった。それは、特に、ブシロードの木谷高明オーナー（会長）と、考えがすれ違うストーリーが多かった。その木谷会長 — 内藤のそういった政治抗争もなくなってきた頃、新日本にハロルド・ジョーイ・メイさんが社長に就任した。メイ社長時代は、内藤は特におとなしかった。そして、今は、大張高己さんという方が代表取締役社長になっている。菅林直樹取締役会長もいる。

そして、内藤は徐々に「俺の意見が通るなんて、珍しい」と発言している。深読みすれば、プロレスなんだから、あのジェイのロープを使った疑惑の3カウント勝利だって決まっている。それから、ジェイがIWGP 権利証保持者で、1月4日に出て、1月5日だけしか出ないことも決まっている。そこに、内藤が例え不利な立場でも、2冠戦を、1月4日に飯伏幸太と戦い、飯伏に勝てば、1月5日にジェイとやることは決まっていただろう。

だから、昔の木谷オーナーと内藤との、内藤の意見が通らない対立というのは、多少本当だった場合もある気がする。しかし、今回の東京ドームの1月4日に2冠戦を飯伏と戦う件は前もって決められてあったと思う。内藤は「俺の意見が通るなんて、珍しい」と言うが、アングル（シナリオ）通りのことを、「珍しい」と発言したとしか思えない。

でも、内藤が「どうせ俺の意見なんて……」と発言するのは懐かしかったので、徐々に聞けて面白かった。だが、アングルでも、3人の中の誰が最後に笑っているかは読めない。（終）

7. コラム、NWA、全日本プロレスレジェンド、徒然。

2020年8月21日（金）

今のジョン・モクスリーが、オカダ・カズチカと対決したら面白い！

ジョン・モクスリーは、現在、AEW の、最高位王座ベルトを巻く、AEW 世界王者である。昨年の新日本プロレスの、G1 CLIMAX 2019では、Aブロックにオカダ・カズチカがいて、Bブロックにモクスリーがいたが、両者それぞれのブロックで脱落して、この2人の対決は見るができなかった。おそらく、その後も、モクスリー — オカダの試合は実現していないはずだ。

WWE で、(元、ディーン・アンブローズ) というリングネームで活躍していたモクスリーは、WWE を退団後、「新日本でG1 CLIMAXに出場する！」と言い、リーグ戦を戦ったようだが、決勝には進めず敗退した。その後、新日本のIWGP ユナイテッド・ステーツ・ヘビー級王座 (IWGP USヘビー) を獲得したが、飛行機のトラブルにより返上した。(その後、また獲得して、現チャンピオンである)。

そして、AEWに移籍。初代AEW世界王者のクリス・ジェリコに挑戦して勝利。第2代AEW世界王者に君臨している。

この超スーパーヘビー級の破壊的強さで、ノリに乗っている今のモクスリーと、新日本でも身長が高くIWGPヘビー級王座を守り続けた、オカダが真っ向から戦ったら面白い。例えば、モクスリーのAEW世界王座と、IWGP USヘビーの2冠をかけて、オカダも新日本でIWGPヘビー級王座と、IWGP インターコンチネンタル王座の2冠を奪って、4冠を懸けて戦うという形なら最高だ。もちろん、2人ともあえて王座のベルトを懸けないで、スペシャルシングルマッチとして、どちらのほうが上かを競わせても楽しい。

私から見て、オカダの価値が高く見えるだけに、モクスリー以外にも、WWEならブロック・レスナー、ビル・ゴールドバーグ、ローマン・レインズ、ブラウン・ストローマンといった辺りのスーパースターズと戦ったら面白いと思う。AEWなら、Cody、ランス・アーチャー、“ハンガマン” アダム・ペイジ。新日本ファンならお馴染みのジェリコやケニー・オメガとの再戦も見たいところだ。

今、確かにAEWの番組の主人公を務めているのは、ジェリコになると思うが、それでもAEW世界王座のベルトを持っているのはモクスリーだ。新日本の顔は、内藤哲也などいても、今のところ最近の実績が一番なのはオカダだろう。すると、団体の威信を懸けて、モクスリー — オカダ。AEW — 新日本。の戦いが実現すれば、大きく盛り上がる。やはり、オカダには身長があるというのが、外国人勢の大柄な相手と戦うにしても説得力を持つのだ。オカダは191cmもある。内藤は180cmだ。確かに内藤はオカダに勝つことはあり、身長が全てではないが。

できたら、東京ドーム辺りで、モクスリーとオカダが、真っ向勝負でどちらが強いのかを魅せてくれたら、こんなに愉快なことはない。AEWと新日本の会社に是非お願いしたい。(終)

2020年9月27日（日）

元、スターダムの花月や葉月の引退は、男子の新日本プロレスとの合体が原因の1つか？

『人生に必要なことは、電流爆破が教えてくれた』（大仁田厚／徳間書店）参照。

・でも、リングに上がったら選手とファンが猛反発して、試合中の怒号がすごかったよ。「女子のリングを汚すな！」って。今だと別に普通のことだけど、当時は女子プロのリングに男子が上がるのは画期的なこととか、あっちゃいけないことだったんで、観客からは大ブーイングの嵐だよ。女子選手からも総スカン食らって、それで俺はジャパン女子に居場所がなくなったんだ。（以上、引用）。

今年の2月くらいに、スターダムに所属していた、花月や葉月などが立て続けに引退した。理由はちゃんとあると思うのだが、親会社のブシロードが、新日本プロレスも傘下に収めていたので、そこで、男子の新日本と女子のスターダムが協力路線を取っていくことを、花月や葉月は気に入らなかつたと勝手に推測することはできる。でも、まったくそんなことは引退の理由ではないかもしれない。だが、前述した大仁田が言うように、新日本のファンはなんとも思っていないと思うが、スターダムの選手や、ファンは、抵抗がある人はいる気がする。もしかしたら、そういうのも慣れてくれば、なんともないのかもしれないが……。

逆に、私がテレビやYouTubeで、新日本とスターダムが関わったシーンを思い出すと、獣神サンダー・ライガーとドンナ・デル・モンド（ジュリア&朱里（は欠席）&舞華&ひめか）のトレーニング指導と食事。井上亘と小波のトライアングル（ファイナルなど）ランサーの技を伝授。小島聡と、岩谷麻優&星輝ありさの練習。真壁刀義の、『STARDOM 5☆ スターGP 2020』のアンバサダー。ライガーや矢野通のスターダムの解説。などがあつた。

私は、スターダムのファン心理としては複雑だが、あまり新日本の選手や関係者が、スターダムの選手と混ぜて欲しくない気持ちもある。でも、別にムキになるほど嫌というわけではないが。

かつて、新日本のリングにも、もう亡くなられた女子プロレスラーだが、ジョーニー・ローラーという選手が、蝶野正洋と東京ドームのシングルマッチで戦うことがあつた。蝶野は「女性がプロレスのリングに上がるべきではない」という発言をすると、ジョーニーは、「蝶野は古い男の考えをしている」といったコメントをして、反発した。試合は、最後はあの蝶野の分厚いブーツのケンカキックでジョーニーから3カウントで勝利した。新日本でも、おそらく、第0試合や提供試合を除いては、初めてジョーニーが新日本で試合をした女性レスラーかもしれない。その後、北斗晶が、外敵軍のサポーター、セコンドとして、新日本のリングに上がることはあつたが……。つまり、新日本は女子を歓迎する人は多いかもしれないが、女子のリングに男子が関わることは、いまだにあまり歓迎されていないのかもしれない。インディーなどを見れば、女子はたくさん男子と共に戦っているのが当たり前だが。

今回の新日本とスターダムの合体は、やや、プラスやマイナスに傾向が出たと思う。（終）

2020年12月4日（金）

NWA “ショックウェーブ”、Episode 1 始動。NWA 世界ヘビー級王者、ニック・オールデイス。

私は、NWA という響きが好きだし、NWA 世界ヘビー級王座、というベルトも好きだ。

もしかしたら、WWE の WWE 王座や、WWE ユニバーサル王座よりも好きかもしれない。

でも、WWE に一時期あった WCW 世界ヘビー級王座（又は、世界ヘビー級王座）は今、封印されているが、あのベルトも好きである。

この日、ユーチューブを見ていたら、おそらく NWA の新番組として “ショックウェーブ” エピソード1（2020）という番組がやっていた。コロナ禍の前は、”NWA Powerrrr” という番組で、マイクパフォーマンスをするとか、リングの180度の角度に、お客さんを入れていたが、今回の “ショックウェーブ” は無観客試合だった。

試合も3試合だけで、第1試合。第2試合。第3試合はメインイベントの、NWA 世界ヘビー級選手権である。

第1試合では、イーライ・ドレイクが出てきて、無名選手を、ブラックメフィストのような技で倒した。

第2試合では、カミール — ヒーシー・モンロー（with、ハルストンボディー）が戦ったが、スピアでカミールが勝った。このカミールは、“NWA Powerrrr” 時代も、筋肉の凄い女性で喋ることはほどなく、「ツンッ！」とした態度を取っていた。この日は少しだけ苦戦したが、最後はやはり勝った。

メインイベント。第3試合では、NWA 世界ヘビー級選手権、（王者）○ニック・オールデイス（with、カミール） — （挑戦者）●マイク・ベネット（with、マリア・ケネリズーベネット）の試合。テキサスクローバーホールド〜レフェリーストップ勝ち、防衛。

このマイク・ベネットのセコンドのマリア・ケネリズーベネットは、WWE や新日本プロレス……などで活躍した赤毛のかわいい女性であり、簡単に呼ぶならマリアのことである。その旦那は名前をマイク・ベネットにしていたので、またややこしくなった。

オールデイスは、ウィキペディアの「歴代 NWA 世界ヘビー級王者」では、2018年に、第132代王者とあるが、2020年までのここ2年はよくわからない。

オールデイスは、NWA 世界ヘビー級王者の絶対王者になりつつある。強敵に期待！（終）

2020年12月18日（金）

ジャンボ鶴田は、「最高ではないが、最強のプロレスラーだった」という証言。

『永遠の最強王者 ジャンボ鶴田』（元「週刊ゴング」編集長 小佐野景浩／ワニブックス）参照。

川田利明：「最強かって聞かれば……最強だと思いますよ。プロレスラーとして最強かどうかというのは、また別で、お客さんに喜んでもらえるとか、人を惹きつけるとかいう面では違うと思うけど、フィジカル的なものでは最強だと思う」。

『昭和プロレスを語ろう！』（小佐野景浩&二宮清純／廣剤堂新書）参照。

小佐野：最強のレスラーであっても、最高のレスラーではないというのが結論ですね。

『猪木力 不滅の闘魂』（アントニオ猪木／河出書房新社）参照。

猪木：今、ジャンボ（鶴田）の話が出たけど、彼もいい人間には違いないけど、それよりも闘いの心がなかった。

（以上、引用）。

川田と、小佐野さんが言っていることには、共通の結論がある。

フィジカル的に、つまりプロレスの闘いをしたら、最強の鶴田。

しかし、お客さんに感動を与えたりする意味の最高のプロレスラーという部分はないということだろう。

だから、前述した、『昭和プロレスを語ろう！』の、小佐野さんの言葉に尽きる。

「最強のレスラーであっても、最高のレスラーではない」。

これも、前述した『永遠の最強王者 ジャンボ鶴田』の本の中では、ジャイアント馬場や天龍源一郎、三沢光晴、川田利明……などが、「ジャンボは余裕で何事もなかったように、スポーツライクで試合をするから、そこがファンからも共感されなかった部分であると語る」。そして、その余裕のスタイルを怒る鶴田に変える為、皆、さまざまな手を使い、鶴田を怒らせようと試合したようだ。

猪木も、やはり、プロレスには「闘い」が前提となると考える人だから、鶴田のファイトには、「闘いがない」と語る。「育ったのが馬場さんのところだったのも原因」とも語る。

私が1999年にプロレスを見始めて、鶴田は翌年死去。今回、鶴田を初めて書いた。（終）

2020年12月21日（月）

ジェフ・ジャレットは、何で、そんなにかわいくて、かっこいいのか？

今、WWEでプロデューサーを務める、ジェフ・ジャレット。

以前の特番でもいたが、この日の特番“TLC”でも、事前番組“Kickoff”で、ブッカーTなどと、コメンテーターを務めていた。

年齢は53歳のようなのだが、白人の金髪で、髪を短く切って立てているし、顔も実にかわいくて、かっこいい。

最近、TNAなどで一緒だったスティングが、AEWに登場したりしている。でも、ジャレットは、おそらく様々な団体を作り歩いたので、年齢を考えても、特にビンス・マクマホン会長が健在なうちは、WWEの裏方として残り続けるのかもしれない。スティングもジャレットも、WWE殿堂者だ。

ジャレットは、クリス・ジェリコとは、WWE（厳密にはWWF）で一緒だった時期があると思う。

そして、ジャレットは、特にTNAの時に、トップ戦線で争った選手にAJスタイルズがいる。この日はコメンテーターで、WWE選手権、(王者)ドリュー・マッキンタイア（挑戦者）AJスタイルズを、どのような気持ちで応援するのかな？と聞いたかった。しかし、マネーのかばんを持った、ザ・ミズとジョン・モリソンが割り込んできたので、ジャレットのコメントを聞くことはできなかった。

ちなみにジェリコとAJは、WWEマットの“レスルマニア32”で戦っている。

私の好きな、このジャレット、ジェリコ、AJはちゃんと三角形で結ばれているが、ジャレットとジェリコの戦いだけがあつたのかは微妙だ。

長いことプロレスを見ているが、ジャレット — ジェリコは、実現していない可能性がある。その試合を映像で見たことがない。

調べると、ジェリコがジャレットの足かけフェースバスターで、“ストーンコールド”スティーブ・オースチンを破り、WWE王座とWCW王座を統一させた技だったという記述がある。

WWE・インターコンチネンタル王座は、ジェリコが9回。ジャレットが6回。AJは1回。ということになっている。AJはそれでもWWE・ユナイテッドステイツ王座は3回ある。

話は戻るが、この日は、ジャレットを見られただけでも嬉しい。本当はまだ戦って欲しいのだが。でも、あのかわいい系のかっこよさは、私はジャレットに惚れてしまうのだ。(終)

2020年12月25日（金）

女子プロレスラーに恋をすると、幸せになる。

私は、今、38歳だが、10代後半か20代くらいの頃は、女子プロレスは、長与千種が作った団体、GAEA-JAPANの追っかけをしていた。（2000年くらいの話だ）。

中でも、若手には、今、女子プロレスの東の横綱と言われる、里村明衣子などがいたが、私は、なんとなく永島千佳世のフィーチャーマンズ・バスターという技が好きで応援していた。だから、女子プロレスで最初にファンになった女子プロレスラーは、永島かもしれない。

2017年に、カイリ・セインがWWEの“NXT”に挑戦ということで、毎回見ているうちに、カイリがどんどん好きになってきた。今までで一番愛した女性プロレスラーと言っている。その後もメインロースター“ロウ”や“スマックダウン”に登場したが、WWEのユーチューブの興行の番組に登場してくれるだけで楽しめた。カイリにはこれからも間接的にWWEに関わって欲しい。

2018年からは、柴雷イオがWWE“NXT”に登場して、子猫のような身のこなしでムーンサルト・プレスなどを放ってくれる。今は、カイリを除けば、WWEの女性レスラーでは、イオが一番好きかもしれない。

2017年には、ニュージーランド出身の、トニー・ストームもWWEに参戦した。かっこよくて、鍛え上げられた、ヒップと太ももにはそそられる。顔も綺麗。イオの次に好き。

2019年からAEWに所属している、志田光も一気にファンになった。以前も書いたが、自分の学生時代にこんな女性の先生がいたら、惚れてしまうだろうと思う。今でも十分素敵だけど。英語か国語の先生がお似合い。

2020年、スターダムを引退してしまった星輝ありさも好きだった。ありさ自身がバンドのボーカルで「SHiNiNG STAR」という入場テーマ曲を歌い、使っていた。ブラジリアンキックは、最高のキレ味がある技で好きだった。

そして、2020年、1月に舞華がスターダムに参戦して、私は綺麗な女性だなと思った。年齢は公表していないが、まだ若い。少しくールだが、気の強さや優しさ、楽しいところもある。私は、今、日本の団体の中では舞華が一番好きな女子プロレスラーだ。

恋をすると、幸せになる。一般の子もいいが、私は、女子プロレスラーが特に好きだ。（終）

あとがきにかえて 2020年12月27日(日) 文:岡本 悠

「WWE 編」、私(岡本悠)の2020年、プロレス大賞。アワード。

WWE(ワールド・レスリング・エンターテインメント)。

最優秀選手賞(MVP) ローマン・レインズ

年間最高試合賞(ベストバウト) “レッスルマニア36”ボンヤード戦 ●AJスタイルズ
ー ○ジ・アンダーテイカー

最優秀タッグチーム賞 <ストリート・プロフィッツ>モーティス・フォード&アンジェ
ロ・ドーキンス

殊勲賞 “ザ・フィード”ブレイ・ワイアット

敢闘賞 ドリュウ・マッキンタイア

技能賞 レイ・ミステリオ

女子プロレス大賞 ASUKA

新人賞 ドミニク・ミステリオ

MVPは、後半から登場してきたレインズが、“ザ・フィード”ブレイ・ワイアットと、ラ
ンディ・オートンなどを押さえて受賞。マッキンタイアは、“サバイバー・シリーズ”の直
接対決でレインズに敗れた為、及ばなかった。

ベストバウトは、やはり、アンダーテイカーの実質の引退試合ということと、私がAJの
ファンということもあり、いろいろ違う試合を探しても、“レッスルマニア”ということも
あり選んだ。試合は映画のような映し方の試合だったが、それでも選んだ。

タッグは、ストリート・プロフィッツだ。1回、中邑真輔&セザーロの違うブランドに所
属する王者同士で対決した時に、ストリート・プロフィッツは勝利している。今もWWE・ス
マックダウン・タッグチーム王座に君臨していると思う。

殊勲賞は“ザ・フィード”ブレイ・ワイアットで王座戦線の相手にも勝っている基準。

敢闘賞は、マッキンタイアが、苦節でWWE王座を獲得したことが挙げられる。見方によっ
ては、ブロック・レスナーに勝っているから、マッキンタイアが殊勲賞でもいいかもしれな
い感じだ。

技能賞は、レイ・ミステリオ。AJと迷ったが、AJはベストバウトを獲っているため。

女子プロレス大賞は、正直、ASUKAかベイリーか迷ったが、ベイリーは今、丸腰だし、ベ
イリーはASUKAを恐れていた印象からだ。

新人賞は、明らかに新人という意味で、ドミニク・ミステリオが父と共に受賞した。(終)

2020年12月28日（月） 文：岡本 悠

「AEW 編」、私（岡本悠）の2020年、プロレス大賞。アワード。

AEW(オール・エリート・レスリング)。

最優秀選手賞 (MVP) ジョン・モクスリー

年間最高試合賞 (ベストバウト) ミモザ・メイヘム・マッチ。●クリス・ジェリコ — ○
オレンジ・キャンディ

最優秀タッグチーム賞 ヤングバックス (マット・ジャクソン&ニック・ジャクソン)

殊勲賞 ケニー・オメガ

敢闘賞 コーディ・ローデス

技能賞 ダービー・アリン

女子プロレス大賞 志田光

新人賞 マット・サイダル

MVPは、ジェリコを破って、第2代 AEW 世界王者を防衛し続けたモクスリーだろう。しかし、モクスリーも年末が近づき、最近、オメガに AEW 世界王座を奪われた。しかし、1年中守り続けたくらい充実していた。

ベストバウトは、ジェリコ — キャンディのミモザ・メイヘム・マッチ。最終的に、オレンジの池に、ものの見事にジェリコが落ちた為、勝敗ではキャンディが勝利。これは、私の中では断トツ。

タッグチームは、ヤングバックスか、FTR (キャッシュ・ウィーラー&ダックス・ハーウッド) と迷ったが、中間持ち続けた FTR でも良いが、直接対決で勝った、ヤングバックスを選んだ。

殊勲賞は、第2代 AEW 世界王座のモクスリーを破ったという意味で、オメガ。

敢闘賞は、コーディ・ローデス。TNT 王者が新設されてから、かなりの防衛をして、2度奪われて今は丸腰だが、その活躍が評価され受賞。ずばりエースだった。

技能賞は、中澤マイケルはないにしても (笑)、アリンと、ダスティン・ローデスで迷ったが、やはり、あの高速の動きから繰り出される攻撃に魅了されて、新しさも含めて、アリンを選択した。

女子プロレスラー大賞は、光だ。光は絶対王者として、第3代 AEW 女子世界王者に君臨し続けている。文句のない受賞だ。

新人賞は、サイダルとアンヘリコで迷ったが、サイダル。2人ともベテランかも。(終)

2020年12月29日（火） 文：岡本 悠

「新日本プロレス編」、私（岡本悠）の2020年、プロレス大賞。アワード。

最優秀選手賞（MVP） 内藤哲也

年間最高試合賞（ベストバウト） 2020年1月5日東京ドーム、IWGP US へビー級選手権試合テキサス・デスマッチ、（王者）●ランス・アーチャー — （挑戦者）○ジョン・モクスリー

最優秀タッグチーム賞 タマ・トンガ&タンガ・ロア

殊勲賞 ジェイ・ホワイト

敢闘賞 飯伏幸太

技能賞 矢野通

女子プロレス大賞 ビー・プレストリー（新日本としての登場）

新人賞 グレートオーカーン

MVPは、2冠王（IWGP へビー級&IWGP インターコンチネンタル）をEVILに奪われたものの、すぐにとり返して、防衛をした内藤だ。EVILもNEW JAPAN CUPと2冠王を取ったが、内藤との直接対決に負け越した。飯伏幸太はG1 CLIMAX 覇者だけだったから落選。

ベストバウトは、アーチャーとモクスリーの超へビー級の対決、迫力があつた。しかし、私はIWGP US へビー級選手権（王者）ジョン・モクスリー — （挑戦者）鈴木みのるにしようとしたが、HDD（ハードディスク）に録画がされていなくて、試合がわからなかった。

最優秀タッグチーム賞は、トンガ&ロア。ワールド・タッグ・リーグ戦も優勝したし、今年前半はずっと防衛を重ねた。文句なく受賞。

殊勲賞は、ジェイ。ジェイは、G1 CLIMAX 覇者の飯伏から、2冠王への対戦権利証を奪う金星を挙げたことなどが挙げられる。

敢闘賞は、飯伏。やはり、G1で3年連続決勝戦進出と、2年連続のG1 覇者が受賞理由になった。

技能賞は、矢野だ。テープなどを使い場外で相手の身動きを取れなくする手段などは、新鮮で高く評価できた。SANADAなども実力的に候補に挙がったが、わずかに矢野だ。

女子プロレス大賞は、ウィル・オスプレイの恋人として現れた、ビーが受賞。

新人賞はオーカーンだ。年末に来て存在感を現し始めた。来年も多いに期待できる。（終）

2020年12月30日（水） 文：岡本 悠

「スターダム編」、私（岡本悠）の2020年、プロレス大賞。アワード。

最優秀選手賞（MVP） ジュリア

年間最高試合賞（ベストバウト） 7月26日、後樂園ホール、ワンダー・オブ・スターダム王座決定戦、ジュリア — 中野たむ

最優秀ゴッデス・チーム賞 林下詩美&上谷沙弥

最優秀アーティスト・チーム賞 ジュリア&朱里&舞華

殊勲賞 林下詩美

敢闘賞 岩谷麻優

技能賞 小波

新人賞 舞華

MVPは、私の中では文句なしでジュリア。でも、ワールド・オブ・スターダム王者（赤い王座）の防衛を続けていた麻優や、その麻優から王座を奪ってゴッデス（タッグ）と2冠王になっていた詩美も第4コーナーから追いかけてきていた。ジュリアは抗争、ライバル、自分のユニット、タイトル、話題性……などがあり、そういうものが含まれた大賞だった。

ベストバウトは、ジュリアとたむ。ジュリアは2冠王。ワンダー・オブ・スターダム王座（白い王座）決定戦のほう、つまり、白い王座戦の2試合目の決着戦ではなく、1つ目の試合を選んだ。最後はジュリアの呼吸ができない複合関節技が出たシーンがポイントだった。

ゴッデス（タッグ）は、詩美と沙弥がリーグ戦などでは不調だったが、最終的にベルトを巻いていたという点が評価された。

アーティスト（3人）は、ジュリア、朱里、舞華の3人。ジュリアは3冠王。（これ、ひいきしていませんよ・笑）。この3人がユニット、ドンナ・デル・モンドができてから、アーティストのベルトを獲って、長期政権を築いた。先日、大江戸隊に奪われたが、今はアーティストからは離れている。

殊勲賞は、麻優を破って赤い王座を獲得した、詩美だ。詩美とすれば殊勲賞では物足りないはずだ。狙うはやはり、MVPだろう。

敢闘賞は、麻優。麻優も言うまでもなく、狙うはMVPだ。来年は立て直したい。

技能賞は、トライアングルランサーなどの女寝業師の小波。シングルを獲りたい。

新人賞は舞華。フューチャー王座を巻いているから新人扱いだが、好きな選手だ。（終）